

2018年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント、ロング・ディスタンス競技部門
報告書



- 開催日 2018年9月14日（金）～16日（日）
- ・9月14日（金） モデルイベント（ロング・ディスタンス競技部門）
 - ・9月15日（土） スプリント競技部門
 - ・9月16日（日） ロング・ディスタンス競技部門
- 開催地 長野県駒ヶ根市赤穂 駒ヶ根高原家族旅行村周辺
- 会場 駒ヶ根高原 アルプスの丘 家族旅行村
- 主催 日本学生オリエンテーリング連盟
- 主管 2018年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 スプリント、ロング・ディスタンス競技部門実行委員会（（有）ヤマカワオーエンタープライズ およびオリエンテーリングクラブ ルーパーで構成）
- 後援 駒ヶ根市、駒ヶ根市教育委員会、一般社団法人 駒ヶ根観光協会、公益社団法人 日本オリエンテーリング協会、長野県オリエンテーリング協会
- 協賛 株式会社 ニチレイ
- 協力 中央アルプス観光株式会社

目次

ご挨拶 Page 2 - 4

1 公式成績 Page 5 - 8

- 1.1 スプリント競技部門----- 5
- 1.2 ロング・ディスタンス競技部門---- 7

2 入賞者コメント Page 9 - 16

- 2.1 スプリント競技部門 男子選手権-- 9
- 2.2 スプリント競技部門 女子選手権-- 11
- 2.3 ロング・ディスタンス競技部門
男子選手権----- 12
- 2.4 ロング・ディスタンス競技部門
女子選手権----- 14

3 競技結果と解説 Page 17 - 28

- 3.1 スプリント競技部門----- 17
- 3.2 ロング・ディスタンス競技部門---- 19
- 3.3 調査依頼と提訴の回答----- 28

4 大会運営報告 Page 29 - 39

- 4.1 大会企画の経緯----- 29
- 4.2 活動実績----- 30
- 4.3 競技面の準備経緯
(スプリント競技部門) ----- 32
- 4.4 競技面の準備経緯
(ロング・ディスタンス競技部門) - 34
- 4.5 会計----- 36

5 イベントアドバイザ報告 Page 40

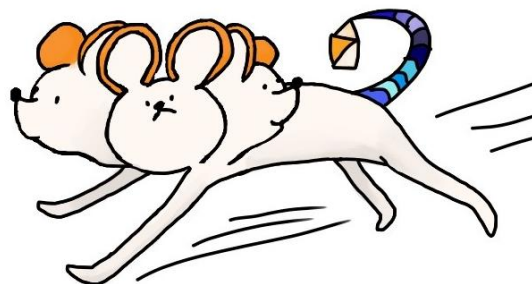
- 5.1 全般----- 40
- 5.2 業務実施報告

6 将来への提言 Page 41

7 選手権の部スタートリスト Page 42 - 43

- 7.1 スプリント競技部門----- 42
- 7.2 ロング・ディスタンス競技部門---- 43

8 大会役員一覧 Page 44



ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長 河合 利幸



やっぱり雨か。この時期の駒ヶ根でのイベントに何回か参加したことのある人は、スプリント競技の日、そう思ったのではないのでしょうか。しかし、選手の皆さんにはあまり関係のないことだったようで、熱い闘いが繰り広げられました。選手権は傘を差しての観戦となりましたが、トレイン内どこでも好きなところに陣取ることができ、スプリント競技のおもしろさを堪能できました。

一方、翌日のロング競技の方は、天気も回復してまずまずのコンディション。選手権男子は 10.1km、女子は 6.4km、最近はなかなかお目にかかれぬ超ロングレグを含むロング競技本来のタフなコースにもかかわらず、男女とも秒差で入賞が決まるシビアさ。これぞインカレというべきレースでした。中間計時だけでなく、ビジュアル区間や GPS トラッキングも会場の盛り上げに一役買っていました。

入賞した皆さん、おめでとうございませぬ。しかし、選手の皆さんの心に去来したものは、喜びや達成感だけではないでしょう。秒差で入賞を逃したり、ライバルたちや自分に勝てなかった悔しさ。競うからこそ楽しいし、悔しい。勝つために厳しさに耐え、よりよく準備すればするほど、喜びも悔しさも大きくなる。インカレという舞台は、それをさらに増幅する仕掛けです。初インカレだった 1 年生の皆さんは何を感じたでしょうか。

関西では、9 月 4 日に通過した台風 21 号により多数の倒木が生じ、複数のトレインが使用できなくなりました。冬を迎えた今なお山林内の道の通行規制などが残り、原状回復には至っていません。温暖化による台風の強大化は今後も懸念されるところであり、開催時期が台風シーズンでないからといって安心できないことがわかります。今回は影響ありませんでしたが、インカレの継続的開催を図るうえで、開催地によってはこのようなリスクも考慮しないといけないのかもしれない。

最後になりましたが、多忙な日々の合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、ご苦勞様でした。地元関係者の皆様には、様々な面で多大なるご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長 遠藤 匠真



地震や豪雨に加えて数多の台風が列島を襲った今年、果たしてインカレは無事に終わるのだろうかと気を揉んでいたのが 9 月初旬のことです。私ですらそうなのですから、実行委員会の皆様はどれだけ心配されたことかと思います。

私たち学生にとって、インカレはあって当たり前の大会になっています。しかし、これだけの規模と歴史を誇る大会ですら天災には抗えないのもまた事実です。全国津々浦々で災害が頻発した今年は、その恐ろしさを身をもって感じた学生も大勢いることでしょう。私たちがスポーツに取り組んでいること、そして日々の修練の成果をインカレでぶつけ合えることがどれほど尊いか、改めて心に刻む機会だったと思います。

そうした中で無事に幕を閉じた今大会は、スプリント競技部門初の一般クラスの設置や速報ボードの完全電子化など、昨年度大会に引き続いて新要素が多く盛り込まれていました。学生の皆さんはこのような変革をどう感じましたでしょうか？ 定着の途上にあるスプリントのみならず、秋インカレのトータルデザインの模索はこれからも続くと思います。私たち学生が望むインカレを形作っていくためには、運営者の挑戦に対する私たちからのフィードバックが欠かせません。漫然とインカレを消費するのではなく、自分はどのようなインカレを求めるのか、ぜひ自問してみてください。

しかしこうしてインカレが変貌する反面、受け継がれてほしいのは選手の熱量です。ロング選手権の劇的な優勝争いをはじめ見所の多かった今大会ですが、私にとって最も印象深かったのはスプリントのフィニッシュ誘導です。一般も選手権も関係なく、誰もが文字通り泥臭い走りをしていました。何度転んでもゴールまでダッシュしようとするその姿が、その人のインカレへの想いとリンクします。今回のインカレは、そんな参加者の想いに応える本当に素晴らしい大会でした。

最後になりますが、今大会の開催に際してご協力いただいた地元駒ヶ根の皆様を始め、ご尽力いただいた関係者の皆様に深くお礼を申し上げ、日本学連幹事長のご挨拶と致します。



今年の駒ヶ根インカレスプリント&ロングが無事に二日間競技成立で終わることができ安堵しています。雨の中のスプリント、例年よりも猛暑の中でのロングと厳しい条件の中でしたが、日頃の成果を発揮され、選手権を勝ち取った選手に敬意を表したいです。本当におめでとうございませう。さて、本年のインカレですが、選手権を更に盛り上げるために、観戦客にもっと楽しんでもらえるような施策を複数実施しました。代表的なものとしては、テレイン解放や GPS トラッキング、液晶ビジョンを用いた演出が挙げられるでしょうか。スプリントでは、テレインの全面開放を行いました。観戦者としては、選手が駆け抜ける姿を間近で感じることができ、選手としては、常に観戦者の目を感じながらのナビゲーションとなり一層の集中力が求められたのではないのでしょうか。更に、ロングでは、テレイン性質やルート制約がある中で、十分な検討を行い、レース序盤に会場でのビジュアルを実現することができました。結果、選手がルート選択する瞬間を間近で観戦でき、選択するルートはもちろんプランニング時間も選手ごとに異なっていたりと、観戦者にとって一層楽しむことができたのではないかと思います。今年、観戦された皆さんにとって、来年の選手権出場に向けたモチベーションの一翼になれば幸いです。しかし、今回実施できた施策も来年も継続できるかは分かりません。テレインの解放有無にかかわらず、使わせていただいている公園や施設の理解はもちろん、競技者として、規則の理解とマナー向上も必要不可欠だと感じました。地図図式規定を理解し、立ち入り禁止箇所に侵入しないことはもちろん、観戦者に対する配慮も必要だと思います。実際にスプリントを観戦時に選手と衝突しそうになった際、選手から暴言を吐かれるといった場面がありました。もし、一般客や施設の人だったらと思うとゾッとします。改めて、地元の方の理解があってこそオリエンテーリング競技が成り立っていることを肝に銘じ、みなさんが主役となって、来年以降のインカレを盛り上げていただけることを期待しています。最後になりましたが、本大会の開催にあたり多大なるご協力をいただきました駒ヶ根市ならびに駒ヶ根高原家族旅行村の方に運営者を代表して御礼を申し上げます。この度はご参加いただき、ありがとうございました。



秋インカレはフランチャイズ制である。誰でもどこの県協会でもどこのクラブでもインカレを提案し開催することができる。大会が結実するまでには1. 企画・立案・(新規の場合はインカレに適しているかの下見も) 初動渉外を経て開催決断、2. その後実行委員会設立 と 3. 地図調査(プロによる)が前後して同時に進行していく。初動渉外を引き継ぐ形で実行委員会が主に大会会場使用や地元周知のために動く。また競技規則に従って要項の内容を吟味しながら大会の内容・運営設計、そして会計面の運用をつめていく。そして大会後インカレで使用したテレインはインカレ一回限りというわけではなく、オリエンテーリング界の財産として今後の活動に資する。それらのサイクルをもって継続性を担保していく。フランチャイズ制ということで、インカレの資金を使って渉外をうまくやりきれば受託した団体には大きな財産が残る、十分に引受けるに値する魅力ある提示、そのつもりであった。過去には応じてくれる団体もあった(地主が騒いで不成立騒ぎもあったが)。しかしこのところは身内からネタを出していくことで何とか継続している状態が続いている。今回も外部からのアプローチはなく、身内ネタを切り出していくしか選択肢が無かった。そこで運営面では協業を持ちかけるに至った。この報告書でも、1. の経緯、2. 特に協業と契約・会計面の報告をもう一方の協業者である OLC ルーバーの各担当者から詳しく報告いただいている。私からは特に加えて報告することはない。うまく協業が達成された。これに尽きる。しかし、今後もこの形が続けていけるかという点も難しいな、と思う。依然スタッフの熱量によって支えられたインカレであった、そんな感想。その熱量が必要なものなら次はどこから供出していただくか、それを思うとまだまだ道は遠いのかなとも思う。勿論、インカレであるからにはまずはきちりとした安心した競技環境が提供されなければいけない。私の目指したいインカレはそういった競技環境が保障されたまま、(特に地域クラブや県協会に協業委託したときは) “普通に”インカレが開催されること。30 年以上業務としてやっても、この部分中々うまく回していくのは難しいなと思う。そこには私自身の資質の問題もあるし、カラダの問題もあってその原因の多くを私自身が作り出している、それは指摘されるまでもなく自覚している。長年一人でプロをやってきて開拓者ではあるが下手だったなあとと思うことも多々ある。そんな私ももう 60 歳、孫のいるお爺ちゃんである。今は後進が今後どう活躍していけるか、そんなことばかり考えて最近では行動している。

他のスタッフが理路整然と報告を書いているのに、まとまりのない文章で申し訳ない。開拓者もそろそろ身を引く準備中だということでお許しいただきたい。

最後にこの警告をもってシメの挨拶とします。今回使用させていただいた施設は 1984 年度のインカレからの付き合いですからもうかれこれ 30 年以上。渉外活動と言っても、全く知り合い同士の会話レベルです。最後会場を後にする挨拶の際、レース中に（休日で営業中の）パターゴルフ場にもゴーカート上にも入った学生がいる、とのお叱りを受けました。スプリントの日は雨で客など入っていないし、そもそもスプリントでゴーカート場にはいかない。晴れたロングの日に多分 1 年生とか、まだクラブできちんとマナー教育が徹底されていない辺りがやったことと推察できる。これは、このテレインだから私が謝れば済んでしまう話で、矢板でも似たようなことは多々起こっている。しかし、場所が変わればこの程度の行為でテレイン閉鎖にもつながる大問題に発展する。実際に合宿中の 1 年生の行動（地図上の立入禁止エリアに侵入）で過去のインカレテレインが閉鎖され、その後インカレ開催を持ちかけるもお断りを受ける、に至った事例も存在する。総会でもお話しましたが、来年の秋インカレも私から開催地ネタを切り出すしか継続が担保できなくなっています。出せるネタがヤマカワハウス周りか郷里周辺、いつも矢板という訳にはいかず、郷里周りといっても、さすがにまたルーパーという訳にはいかないだろうな、と思う今日この頃である。ルーパーには貴重な成功例と貴重な資料を残していただいて感謝しかないが、これをどう活用していくか？良い案をお持ちの方はどうか寄せて欲しい。お願いします。

<シメがお小言になってしまいますが、先日の関東北東セレ（12/9）でも地図をみてフィニッシュから会場に戻れ、だったので、地図上でオリーブに塗られたエリアを短絡した学生が多数発生、そこをご主人から地図記載に実行委員長に苦情電話が入り、急遽実行委員会は謝罪と立ち番の派遣に追われた。プログラムの表紙にデカデカと渉外問題に対する注意喚起を書いてもこの状態なので、各校は真剣に今一度下級性へのマナー教育を徹底していただきたいと思う次第である（12/14 記）>

1

公式成績

1.1 スプリント競技部門

ME 参加人数 63名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	桃井 陽佑	12:21.3	慶応義塾大学 3
2	種市 雅也	12:51.2	東京大学 3
3	伊藤 樹	12:59.6	横浜国立大学 4
4	大橋 陽樹	13:08.2	東京大学 3
5	上島 浩平	13:14.2	慶応義塾大学 4
6	伴 広輝	13:26.3	京都大学 4
7	前野 達也	13:33.4	名古屋大学 4
8	竹内 公一	13:41.5	名古屋大学 4
9	北見 匠	13:43.2	東北大学 3
10	青芳 龍	13:54.2	東北大学 3
11	山本 明史	14:03.6	京都大学 4
12	川島 聖也	14:13.4	神戸大学 3
13	森河 俊成	14:21.2	京都大学 3
14	八重樫 篤矢	14:22.6	東北大学 3
15	横山 裕晃	14:24.2	東北大学 4
16	椎名 晃丈	14:24.8	東京大学 2
17	下江 健史	14:30.9	広島大学 3
18	宮本 樹	14:39.7	東京大学 4
19	岩垣 和也	14:45.4	名古屋大学 3
20	豊田健登	14:47.5	茨城大学 2
21	殿垣 佳治	14:52.8	東京大学 4
22	渡邊 大地	14:55.6	東北大学 3
23	中村 僚宏	14:56.9	東京大学 2
24	上村 太城	15:04.2	慶応義塾大学 3
25	棚橋 一樹	15:08.7	名古屋大学 2
26	小寺 義伸	15:13.1	東京工業大学 2
27	小原 和彦	15:14.6	東京工業大学 4
28	川名 竣介	15:20.5	東京農工大学 3
29	上野 康平	15:22.5	東京工業大学 4
30	櫻木 嵩斗	15:22.9	東京工業大学 2
31	渡邊 駿太	15:24.6	新潟大学 3
32	長谷川 望	15:25.6	早稲田大学 3

順位	氏名	記録	学校・学年
33	岡本 洸彰	15:30.3	東京大学 4
34	金田 蓮	15:32.8	新潟大学 3
35	林 雅人	15:44.6	名古屋大学 4
36	村井 智也	15:54.8	東京大学 4
37	川口 真司	16:07.9	名古屋大学 3
38	長井 健太	16:08.1	東京農工大学 4
39	菅原 晨太郎	16:18.2	東北大学 3
40	小松 宗一郎	16:20.4	新潟大学 4
41	石田 晴輝	16:24.5	東京大学 3
42	茂原 瑞基	16:28.4	慶応義塾大学 3
43	山本 智士	16:33.2	名古屋大学 3
44	嶋崎 渉	16:46.4	東北大学 2
45	谷口 恵祐	16:54.4	東北大学 3
46	山本 哲也	17:51.5	金沢大学 3
47	椎名 渉	18:19.6	東京工業大学 4
48	澤入圭司	19:25.3	静岡大学 3
	蘭部 駿太	DISQ	東北大学 2
	渡辺 鷹志	DISQ	慶応義塾大学 3
	岩井 龍之介	DISQ	京都大学 3
	濱宇津 佑亮	DISQ	東京大学 4
	高見澤 翔一	DISQ	一橋大学 3
	富田 智司	DISQ	新潟大学 3
	浅井 寛之	DISQ	東京大学 2
	柴沼 健	DISQ	早稲田大学 4
	三浦 一将	DISQ	名古屋大学 3
	三家本 雄貴	DISQ	広島大学 2
	佐藤 遼平	DISQ	東京大学 4
	稲森 剛	DISQ	横浜国立大学 4
	齋藤 佑樹	DISQ	早稲田大学 4
	大森 総司	DISQ	名古屋大学 2
	塩平 真士	DISQ	北海道大学 4

WE 参加人数 36 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	伊部 琴美	12:13.1	名古屋大学 2
2	増澤 すず	12:51.5	筑波大学 3
3	青代 香菜子	13:02.2	東北大学 3
4	出田 涼子	13:28.5	大阪大学 3
5	高橋 友理奈	13:40.5	東北大学 4
6	伊東 加織	13:45.8	東北大学 3
7	香取 瑞穂	13:48.6	立教大学 2
8	佐野 萌子	13:49.0	京都女子大学 4
9	香取 菜穂	13:59.1	千葉大学 4
10	宮本 和奏	14:24.5	筑波大学 2
11	立花 和祈	14:25.2	実践女子大学 4
12	小竹 佳穂	14:32.5	筑波大学 3
13	伊佐野 はる香	14:33.5	東北大学 4
14	臼井 沙耶香	14:33.6	東北大学 4
15	山森 汐莉	14:42.9	金沢大学 4
16	世良 史佳	14:45.3	立教大学 2
17	清野 幸	14:53.2	横浜国立大学 2
18	富永 万由	14:54.2	早稲田大学 2
19	高橋 利奈	14:56.0	日本女子大学 3
20	齋藤 百花	15:03.5	広島大学 3
21	飯田 涼芳	15:32.2	実践女子大学 3
22	小野 花織	15:48.4	椋山女学園大学 4
23	金澤めぐみ	15:49.7	奈良女子大学 4
24	小笠原 萌	16:10.2	奈良女子大学 2
25	河村 優花	16:32.5	名古屋大学 3
26	小林 美咲	16:42.3	十文字学園女子大学 3
27	稲垣 秀奈美	17:04.2	千葉大学 4
28	八木 千尋	17:28.3	東京農工大学 4
29	秋山 美玲	18:06.1	早稲田大学 2
30	久野 公愛	18:33.4	日本女子大学 3
31	山森 麻未	20:05.3	椋山女学園大学 4
32	和波 明日香	21:06.7	椋山女学園大学 2
	塚越 真悠子	DISQ	大阪大学 3
	村田 茉奈美	DISQ	フェリス学院大学 4
	勝山 佳恵	DISQ	茨城大学 4
	木村 るび子	DISQ	立教大学 4

1.2 ロング・ディスタンス競技部門

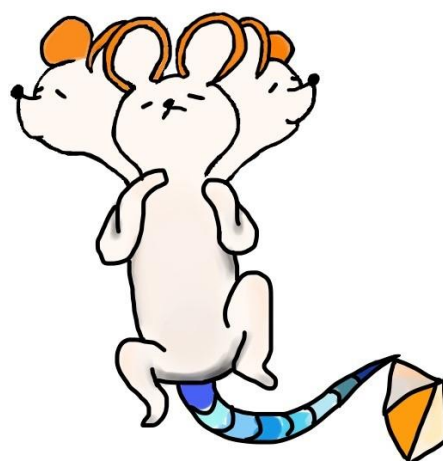
ME 参加人数 71 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	柴沼 健	1:17:39	早稲田大学 4
2	種市 雅也	1:17:49	東京大学 3
3	大橋 陽樹	1:22:48	東京大学 3
4	濱宇津 佑亮	1:22:57	東京大学 4
5	佐藤 遼平	1:23:18	東京大学 4
6	稲森 剛	1:25:09	横浜国立大学 4
7	森河 俊成	1:25:29	京都大学 3
8	長岡 凌生	1:25:37	東北大学 3
9	村井 智也	1:25:43	東京大学 4
10	横山 裕晃	1:27:05	東北大学 4
11	竹内 公一	1:28:08	名古屋大学 4
12	殿垣 佳治	1:28:28	東京大学 4
13	伊藤 樹	1:28:38	横浜国立大学 4
14	宮本 樹	1:28:51	東京大学 4
15	伴 広輝	1:28:57	京都大学 4
16	岩井 龍之介	1:29:48	京都大学 3
17	中村 僚宏	1:29:49	東京大学 2
18	前野 達也	1:30:00	名古屋大学 4
19	小原 和彦	1:30:12	東京工業大学 4
20	上島 浩平	1:30:58	慶応義塾大学 4
21	谷口 文弥	1:31:09	東京大学 4
22	田中創	1:31:14	大阪大学 4
23	大石 洋輔	1:31:40	早稲田大学 2
24	桃井 陽佑	1:31:55	慶応義塾大学 3
25	川島 聖也	1:32:02	神戸大学 3
26	小牧 弘季	1:32:07	筑波大学 2
27	渡邊 大地	1:32:26	東北大学 3
28	椎名 晃丈	1:33:07	東京大学 2
29	伊藤 光祐	1:34:27	東北大学 3
30	松本 萌希	1:35:06	京都大学 4
31	下江 健史	1:35:14	広島大学 3
32	岡本 洸彰	1:35:52	東京大学 4
33	小池 棕介	1:36:13	京都大学 3
34	岩垣 和也	1:36:27	名古屋大学 3
35	山本 明史	1:37:12	京都大学 4
36	長井 健太	1:37:20	東京農工大学 4

順位	氏名	記録	学校・学年
37	齋藤 佑樹	1:37:54	早稲田大学 4
38	大田 将司	1:38:07	一橋大学 4
39	金子 哲士	1:38:44	東北大学 2
40	長谷川 望	1:39:18	早稲田大学 3
41	林 雅人	1:40:36	名古屋大学 4
42	浅井 寛之	1:40:56	東京大学 2
43	塩平 真士	1:42:25	北海道大学 4
44	清水 俊祐	1:43:07	慶応義塾大学 3
45	若松 甫	1:43:41	東京工業大学 3
46	大野 絢平	1:45:35	京都大学 3
47	衣笠 舜登	1:45:53	京都大学 2
48	山本 哲也	1:46:14	金沢大学 3
49	菅原 晨太郎	1:47:18	東北大学 3
50	櫻井 一樹	1:47:34	東京工業大学 2
51	和佐田 祥太郎	1:47:42	京都大学 1
52	池田 匠	1:47:54	早稲田大学 1
53	三浦 一将	1:48:56	名古屋大学 3
54	森川 周	1:49:00	東京大学 2
55	江野 弘太郎	1:50:55	慶応義塾大学 2
56	小寺 義伸	1:51:28	東京工業大学 2
57	奥尾優理	1:52:09	茨城大学 4
58	宮嶋 哲矢	1:53:50	千葉大学 2
59	河北 拓人	1:55:06	筑波大学 3
60	太田 知也	1:57:08	京都大学 2
61	遠藤匠真	1:58:36	大阪大学 4
62	本村 汰一朗	1:58:57	金沢大学 4
	楠 健志	2:06:27	筑波大学 4
	上野 康平	DISQ	東京工業大学 4
	丸山 ゆう	DISQ	京都大学 2
	山内 優太	DISQ	広島大学 2
	西下 遼介	2:00:02	慶応義塾大学 3
	杉本舜	2:49:29	大阪大学 3
	川名 竣介	DISQ	東京農工大学 3
	河野 貴大	2:02:15	東京工業大学 2
	北見 匠	DISQ	東北大学 3

WE 参加人数 40 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	増澤 すず	0:58:32	筑波大学 3
2	勝山佳恵	1:00:54	茨城大学 4
3	伊部 琴美	1:01:08	名古屋大学 2
4	香取 菜穂	1:02:14	千葉大学 4
5	伊佐野 はる香	1:03:47	東北大学 4
6	香取 瑞穂	1:04:08	立教大学 2
7	山岸 夏希	1:04:09	筑波大学 4
8	宮本 和奏	1:04:28	筑波大学 2
9	河村 優花	1:06:13	名古屋大学 3
10	高橋 友理奈	1:06:41	東北大学 4
11	森谷 風香	1:09:37	千葉大学 4
12	小林 祐子	1:10:49	東北大学 2
13	臼井 沙耶香	1:11:06	東北大学 4
14	鈴木 伽南	1:11:54	京都女子大学 3
15	村田 茉奈美	1:12:11	フェリス女学院大学 4
16	伊東 加織	1:12:26	東北大学 3
17	青代 香菜子	1:12:32	東北大学 3
18	木村 るび子	1:13:01	立教大学 4
19	佐久間 若菜	1:13:07	筑波大学 2
20	小竹 佳穂	1:14:02	筑波大学 3
21	塚越真悠子	1:14:09	大阪大学 3
22	出田 涼子	1:16:31	大阪大学 3
23	佐野 萌子	1:16:40	京都女子大学 4
24	高橋 ひなの	1:17:01	東北大学 4
25	井村 唯	1:18:54	新潟大学 2
26	山森 汐莉	1:22:15	金沢大学 4
27	岡本ひなの	1:23:23	奈良女子大学 4
28	諏訪 夏海	1:25:24	東北大学 3
29	立花 和祈	1:27:44	実践女子大学 4
30	羽鳥 咲和	1:31:14	京都女子大学 3
31	伊藤奈緒	1:31:49	静岡大学 4
32	澤口 未来	1:32:03	岩手県立大学 4
33	一宮 菜津美	1:35:23	宮城学院女子大学 4
34	河野 珠里亜	1:38:17	新潟大学 2
35	山内 美輝	1:38:18	新潟大学 3
36	稲垣 秀奈美	1:38:45	千葉大学 4
37	八木橋 まい	1:40:21	東北大学 2
38	土江 千穂	1:41:54	京都女子大学 4
39	山根 萌加	1:42:47	京都大学 1
	荒木 さくら	2:17:37	岡山大学 2



2

入賞者コメント

2.1 スプリント競技部門 男子選手権

1 桃井 陽佑 0:12:21.3 慶応義塾大学

この度はインカレスプリントという最高の舞台で優勝という成績を収める事ができ、大変嬉しく思います。昨年度のインカレスプリントでは入賞を目標として臨んだものの、自分の力を上手く発揮できず、思うような結果を出すことができませんでした。そこで悔しい思いをして以来、今回のレースでの優勝を目標に掲げ、出来る限り多くのスプリントに参加して技術を磨き、継続的なトレーニングを行うなどして努力を重ねてきました。また平日頃から「どうすればインカレ本番のような大舞台で緊張やプレッシャーに負けず、自分の力を最大限に発揮できるのか」という事について考え、普段のレースにて試行錯誤を繰り返しその答えを模索していました。その結果、今回のレースでは自分の力を最大限に発揮し、最後まで力強い走りをする事ができました。レース終盤の登り坂をはじめ、レース中辛くなる場面が何度かあったのですが、その度に応援の声に助けられ、何とか踏ん張る事ができました。応援して下さいました方々には本当に感謝しています。

今回自分はインカレという大舞台で優勝する事ができましたが、これは自分一人の力では決して成し遂げられなかったと思います。自分にオリエンテーリングの楽しさ教えてくれた同期の人達、熱心に指導して下さいました先輩方、充実したサポートをして下さったオフィシャルさん達、そして今まで応援してくれた KOLC の人達はこの場を借りて今一度感謝の言葉を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

2 種市 雅也 0:12:51.2 東京大学

まずはじめに運営者の皆様、素晴らしい大会を開いてくださりありがとうございます。優勝を目標にこのレースに臨みましたが、結果は準優勝でした。昨年度チャンプとしてレースを走ることのプレッシャーは大きかったです。昨年の自分よりも良いレースをしなければもう一度勝つことは難しいと思いました。今回のインカレは、ロングに重きを置いてトレーニングしてきたので正直スプリントには技術的な不安がありました。それでも勝ちたい思いが強くレース前の待機所では非常に緊張していましたが、スタート 1 分前枠に入った時気持ちを整いました。レース内容は良いとは言えなかったけど、最後の 3 レッグで必死に走ったことで順位を一つ上げて伊藤選手に勝てたのが嬉しいです。優勝できず大差で負けた悔しさは強いけれど、入賞してほっとした自分もいました。今年は 1 年の時から目標としていた樹さんとのラストインカレスプリントでした。スプリントという競技に真剣に打ち込んでこられたのも樹さんの存在がありました。来年は絶対優勝します！

3 伊藤 樹 0:12:59.6 横浜国立大学

富士見リゾートで稲森剛がスプリントチャンプになってから 3 年がたち、現役最後のインカレスプリントが終わりました。3 年前と比べるとスプリントの立ち位置、競技者のスプリントに対する意識が大きく変わった気がします。多くの方がスプリントの楽しさを知って、競技に打ち込むようになりました。近 4 年、毎年インカレスプリントチャンプが入れ替わっているところがそれを物語っていると思います。そんな現状に自身も刺激を受け、競技に高いモチベーションで取り組むことができました。しかしそれと同時に、現在競技者に練習の成果を発揮する競技の場を十分に提供するのが難しいという日本オリエンテーリング界の現状があります。4 年間競技の場を精一杯の努力で提供してもらった分、今後自身が最高の競技の場を提供できるように取り組んでいきたいです。もちろん、競技者としてもより高いレベルを目指していきたいです。

最後に、今回最高の競技の場を作り上げて下さった参加者、運営者のみなさま、本当にありがとうございました。

4 大橋 陽樹 0:13:08.2 東京大学

目標は入賞でした。昨年も運良く、予想外に入賞していたけれど、今年は入賞を目指して入賞す

ることができたので昨年よりも喜びが大きいです。昨年入賞してからは、次は優勝を目指したいと思っていました。スプリントは走力の占める割合が大きいので、走力をつけなければなりません。そう思いながらも、要領の良さも気合も足りず、それほど走り込んでいませんでした。走力に自信がないまま半年が経ち、ここからインカレスプリントで優勝できるくらいの走力をつけることがイメージできず、優勝は諦めかけていました。しかし、世界学生選手権でスプリントに日本代表として走ることになり、代表メンバーの中でも格下、海外選手との走力の差は歴然、そんな中で代表として恥ずかしくないような走りができるようなんとかして少しでも走力差を補わなければ、と調べているうちに、走力以外にも磨きようのあるところはたくさんあると気付きました。それからは、読図で減速をしないこととルート在即断せずきちんと考えることを意識して磨いていくことにしました。残念ながらインカレ前までに優勝が狙えるほどに磨くことはできませんでしたが、スプリントに対するモチベーションも上がり、今回の結果に繋がりました。来年こそは優勝を狙えるようになりたいと思っています。

競技中にずっと観戦者がいて、応援されているのは、自分の中でもずっと盛り上がって楽しかったです。楽しいインカレをありがとうございました。

5 上島 浩平 0:13:14.2 慶応義塾大学

最後のインカレスプリントが終わってしまいました。

3年前、富士見インカレでスプリントの面白さに魅せられてから私にとってスプリント競技というものは自分の大学生活を語る上でなくてはならないものとなりました。誰よりも地図図式に詳しく、誰よりもトレイン及びコースにはこだわりがある、と自信を持って言えます。そんな自分の中で大切にしてきたスプリント競技で満足の行く結果が残せなかったのは悔しくてたまりません。しかし、インカレが終わった今、優勝した桃井の準備を聞けば、自分は驕った気持ちで対策に取り組んでいたのだと気付かされます。

自分の求めるスプリント像とは異なる面から目を背け、やりたいことばかりに固執し、1秒のためにできることすべてを尽くすという姿勢を忘れていました。インカレスプリントは二度と戻ってきませんが、ここで諦めるわけにはいかないと強く感じます。この悔しさを晴らすため、自分の信じるスプリントと学んだ教訓を次の世代に伝えるため、初心に戻り、これからもスプリント競技に向き合い続けていきます。

大切なことを教えてくれたこのインカレに感謝するとともに、支えてくださった皆様、応援してくださった皆様にはお礼申し上げます。ありがとうございました。

6 伴 広輝 0:13:26.3 京都大学

自分にとってスプリントはオリエンテーリングの種目の中でも一二を争うくらい好きな種目で、そのスプリントにおいてインカレの表彰台に立つことができたのはとても嬉しく思っています。レース内容としては距離が短い序盤から飛ばして入る作戦でいきました。しかし中盤で普段ではしないようなミスを立て続けにし、終盤のキツイところも踏ん張りきれず、それでも途中のよかったルートチョイスのおかげでなんとか入賞に滑り込むことができました。

今回のインカレは8月に負った故障を抱えたままの出場となり、調整等に非常に苦労し必ずしもベストパフォーマンスを出せる状態ではありませんでした。レース内容にも悔いはたくさんあります。準備ももっとできたことがあったんじゃないかと思います。今年は運に助けられた部分もあると思います。それでも今回の結果は十分に納得のいくもので誇りに思っています。

今回のインカレ全体で見ると自分はロングに大きく照準を当てていました。しかしそちらは惨敗でした。とても悔しいです。今回のインカレを糧に学生最後の春インカレはミドル・リレー両日で最高の結果を残せるよう日々努力していきたいと思っています。

最後にたくさんの応援をしてくださった京大京女のみんな、OBOG、オフィシャルの方々、ありがとうございました。また素晴らしい大会を開催してくださった運営者のみなさまありがとうございました。

2.2 スプリント競技部門 女子選手権

1 伊部 琴美 0:12:13.1 名古屋大学

優勝することができて、とても嬉しく思います。インカレをよくわかってなかった去年とは違い、スプリントで特に優勝したいという気持ちを抱いていた今年は、今まででないくらい1番緊張していました。レース自体は競技エリア全体での応援が新鮮でずっと力になっていました。実は、途中で通行禁止の岩崖を通過してしまっただけで失格になったと思ひ込み、最初優勝と言われた時喜ばせませんでした。失格ではなくちゃんと優勝できたことがわかった時はじわじわと嬉しさがこみ上げて来て最後まで走って良かったなと思いました。

応援も多く、コースもとてもよくこの舞台で優勝できて本当に良かったです。運営してくれた方々ありがとうございました。

また、たくさんの応援してくれた方々、練習会を開いてくれた先輩方、サポートしてくれたオフィシャルの方々、一緒にトレしてくれた部活のメンバーなどいろんな人に感謝しています。ありがとうございました。

あと2回のインカレスプリントも優勝できるよう頑張ります。

2 増澤 すず 0:12:51.5 筑波大学

優勝を狙っていましたが完敗でした。ミスですべて削っても勝てないと思いました。7月のWUOCスプリントリレーでトップのスピードを体感し衝撃を受けました。技術云々よりも圧倒的にフィジカルが足りていないことを痛感させられました。4ヶ月以上が経過した今でも、私がほんの少しのミスをした後、必死に走ってもどんどん遠ざかっていく集団の背中を思い出します。この気持ちを忘れずに練習に励んできたつもりでしたが、足りませんでした。応援ありがとうございました。来年こそは優勝します。

3 青代 香菜子 0:13:02.2 東北大学

東北大 OLC3年の青代香菜子です。この度、2018年度インカレスプリント競技部門で3位に入賞することができました。

選手権クラス自体初めての経験で、当日走る直前まで不安と緊張でいっぱいでした。

そのような状況でも頑張ることができたのは、部員の皆さんの応援の力です。皆さんの声を聞いて冷静さを取り戻しました。そしてきつい上り坂でも足を止めずに走りきることができました。この場を借りてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました！

来年のスプリントも、今回の結果に恥じないようなものにします。そのためにこれからの練習会や大会ではいろいろな人と競いあい、切磋琢磨して技術力を高めていきたいです。

4 出田 涼子 0:13:28.5 大阪大学

今回のインカレは、正直、いい記録を出せる気がしませんでした。もちろん、インカレに向けて準備は重ねてきました。過去の地図を読んだり、同期が旧図に新しいコースを載せてくれたのを一緒に読図走したり。しかし、もっとやれることはあったのではないかという思いが消えませんでした。走力強化が不十分だから、また走り負けてしまうのではないか。山主体のスプリントに対応できないのではないか。そもそも、自分の技術力は本当に十分高いのだろうか。前週にスプリントの大会でポスト飛ばしペナをしてしまったことが、不安に拍車をかけました。

そうして迎えた当日でしたが、直前までアナリシスと向き合ったことでレースに向けて集中力が高まりました。テレイン全体に観戦者がいることには面食らいましたが、1ポ以降は自分のレースに集中できました。また、レースのスピード感に飲まれて先読みが不十分だったレッグも多かったのですが、立ち禁のせいで直前にルートを変えたところこそあれど、出戻ってロスしたところはありません。結果として、これらのおかげで4位に踏みとどまれたのかなと思います。

どんどん足の速い選手が現れていますし、2年の時のICSでは入賞を逃したので、1年で入賞できたのは周りがまだスプリントを重視していなかったから起きたまぐれで、もう無理なのかと少し思っていました。なので、今回4位という、1年の時+1の順位で終わったので、あの記録はまぐれ

じゃなかったとか、今でもコースによっては十分戦えるだとか、色々なことが証明された気がして嬉しいです。

来年はいよいよ最後の秋インカレとなります。1年の時が一番順位がいいのはやはり悔しいので、より一層頑張り、表彰台のより高いところを目指します。

最後になりましたが、お忙しい中素晴らしい大会を開いてくださった運営者の皆様、丁寧にサポートをくださったオフィシャルの皆様、一緒に頑張ってくれた同期、応援してくれた皆様に心より感謝いたします。

5 高橋 友理奈 0:13:40.5 東北大学

昨年度のインカレスプリントは、怪我によりセレクションにすら出ることができず、選手権の部を走っている人たちを応援してただただ羨ましかったと記憶しています。そのため今年はスプリントの選手権クラスを走れるということが非常に嬉しく、わくわくした気持ちで本番に臨みました。今回のインカレはスプリントの観戦エリア拡大や、ロングでの会場を通過するビジュアルなど、全く予想をしていなかったシチュエーションが多くなされていて、走っていて本当に楽しかったです。インカレスプリントの目標は入賞だったため、目標を達成することが出来て嬉しく思います。しかし、自分の実力不足を感じるレース内容で、満足とまではいきませんでした。さらにロングでは大変不甲斐ない走りをしてしまい、楽しかったけれど、悔しい部分が多いインカレとなってしまいました。最後の春インカレでは、ミドル、リレー共に満足のいく結果を残して笑顔で終えられるように、今までにないくらい努力していきたいです。みんなが本気で臨んでこんなにも熱くなれるインカレは最高の舞台です。最後に、このような素晴らしい舞台を設けてくださった運営者の皆様に感謝申し上げます。

6 伊東 加織 0:13:45.8 東北大学

入賞できて本当に驚きました。わたしは入賞できるほどの力を持っていないし、他の人に比べると練習もがんばっていません。納得のいくレースではありませんでした。去年の入賞に引き続き、今年もラッキーで入賞できたのでしょうか。オリエンテーリングには自信を持てませんが、自分の運のよさには自信を持てそうですね！しかし、ラッキーな入賞だとしても、すごくうれしいです。加えて、東北女子から自分含め3人も表彰台に上げられるなんて最高の気分でした。東北女子のみなさんはとても尊敬できます。すごいです。春インカレでもたくさん活躍することでしょう。春インカレは2日間ともフォレストですね。自分はスプリントは好きですが、フォレストは苦手です。わたしも何かできるようがんばります。

2.3 ロング・ディスタンス競技部門 男子選手権

1 柴沼 健 1:17:39 早稲田大学

インカレロングの選手権を走るのは今年で3回目でした。2016年の前高原は32位、2017年の関ヶ原は19位と、特に目立った成績を収めていなかったのが、今年の優勝は自分の中でも大躍進だったと思います。1位になれたことに加えて、大きく成長出来たことがとても嬉しいです。

ロングで勝つことをしっかり意識し始めたのは去年の冬頃でした。その頃、自分のオリエンテーリングが一段速くなり、上を狙えるというぼんやりとした実感を持てたからです。フィジカルの方も、OCの人達と一緒にインターバルトレに取り組むことで、スピード・持久力を高めることが出来ていました。月間走行距離は100-150キロ程だったので、効果的なトレーニングが積めていたと思います。

本番ではこの準備のおかげで、転がり込んできたチャンスを拾うことが出来ました。2つ目のロングレグのチョイスミスもあって、一時は種市に3分離されてしまいましたが、終盤に種市がミス。森の最後のコントロールでは同タイムに並びます。ラストの道を登るだけの区間は、本当に苦しかったですが、体に鞭打ってとにかく登りました。ラスポで足が止まりそうになった時も、OCの人や、またOC以外の方々の声援のおかげで、なんとかフィニッシュまで走り抜くことができ、結果10秒の差でトップタイム。極限状態において応援の力がどれだけ大きいのかを、身に染みて感じ

たラストスパートでした。

最後のインカレロングでこんなに貴重な経験を出来たことをとても嬉しく思います。大会を運営して頂いた方々、トレーニングでいつも一緒に走っている人達、合宿などで指導をしてくれた方々、そして声援を送って頂いた方々、OCの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました！

2 種市 雅也 1:17:49 東京大学

まずはじめに運営者の皆様、素晴らしい大会を開いてくださりありがとうございます。昨年度のロングは対策不足で納得のいくレースができませんでした。今年は今までのレースを振り返って、たくさんロングレースに出走してロングで勝てる走り方を身につけることができるように頑張ってきました。満を持して今年はロングで優勝するという目標を立てました。OLK内部では大橋が絶好調で、脅威に感じていました。合宿や大会での手ごたえから大橋に勝てば優勝できるだろうと考えていました。当日のレースは、序盤からビジュアルと超ロングレッグで驚きました。かなり対策していましたが、予想を超えるロングレッグで思い出に残るレッグとなりました。中盤の登りがきつい時、大橋なら走り続けるだろうと思い前へ前へ足を進め続けました。気を付けなければいけない終盤の扇状地で、集中力が薄れたのが敗因でした。柴健に負けたのを受け入れた時、悔しさで涙が零れ落ちて体が震えました。勝つにはまだまだ実力が足りなかった。まだまだ速くなれる。来年は絶対優勝します！

3 大橋 陽樹 1:22:48 東京大学

目標としていた優勝には届かなかったものの、本番も上出来な走りのできた結果であり、満足しています。

僕はスプリントよりフォレストの方が好きなので、フォレストに重点を置いていました。去年はうまく走れなかったロングも、今年は度々いいレースができるようになっていました。8月のOLKの部内杯でいいレースができたときには、この調子ならいけるかもしれない、と思えたけれど、その出来のレースはそれ以後できることはありませんでした。優勝のためには、あのレースを超えるできでないといけなく、というプレッシャーがある一方で、普段通りにやればきっと入賞はできるだろうという自信がありました。走り始めてからは、やはり普段通り。最高の感覚ではないけれど、大きく崩れることはなく我慢して走り続けることができました。多少ミスをして、スピードが上がらなくても、入賞には絡める、という自信のおかげで落ち着いて走っていたのが良かったと思います。あとは、インカレの熱や応援のおかげで苦しい登りや道走りでいつもよりも耐えられました。しかし、上位二人とはかなり差をつけられてしまったので、来年はもっともっと速くなってリベンジしたいです。

最後に、忙しい中運営して下さった運営者の皆様、いつもサポートしてくれるOBOGさん、刺激をくれたり、一緒に練習したりしてくれるライバルたち、応援してくれる人たち、たくさんの方に感謝の気持ちでいっぱいです。みなさんのおかげでとても楽しいインカレを経験することができました。ありがとうございました。

4 濱宇津 佑亮 1:22:57 東京大学

まず、入賞できてとても嬉しいです。3年までやる気に波があったり、行動で示せなかった僕を長い目で温かく見守って下さった方々のおかげです。応援ありがとうございました。

レース自体はあまり良くありませんでした。というのも2→3のロングレッグで、7番に行く様にプランを立ててしまい、右巻ルートを選んでしまいました。ミスに気がついた際には「投げ出したい」という考えが頭によぎりました。ただ、昨年度入賞した糸さんや、2年前優勝した猪俣さんから「入賞は意外とミスをしていても行けるもの」というアドバイスを思い出して、ロングレッグの8番で勝負を駆けることにしました。結果として、このレッグ1位ラップをとる事ができ、これによって入賞圏に入ることができました。表彰式では1年生からのことを思い出して泣いてしまいました。1年生のころから怪我が続き、多くの一年生が抱くようなインカレへのあこがれを抱くこともできず、正直、周りに溶け込めていなかったです。オリエンテーリングが好きではなくなりかけてしま

うこともありました。それでも、いろんな魅力を見せてくれるオリエンテーリングが好きだったし、こんなひねくれ者にも期待してくれる人がいたので、もう一度オリエンテーリングをうまくなりたいたいと思うことができました。

成績自体も嬉しいですが、3月からここまで怪我やモチベーションの低下なく取り組み続けられたことと、期待してくれていた人たちにやっと応えられたことが何より嬉しかったです。オリエンテーリングに熱中したオリエン馬鹿たちが、集い・競う、そんなインカレという場を作ってくださった運営の方々、応援・サポートしてくれたの方々、そして一緒に競い合ってくれたの方々、ありがとうございました。

5 佐藤 遼平 1:23:18 東京大学

苦しいインカレが個人的に続く中で得られた結果としては非常に価値のある、次につながる結果を得られ、嬉しく思います。高校時代から競ってきたライバルたちとのぼる表彰台は何物にも代え難いものでした。

それでも今回、悔しい思いが強いです。終盤、ミスを怖がって追いつかれた種市選手を少し頼ってしまったり、登りの道走りで甘えたり、自分の弱い部分がでてしまいました。自分を支えてきた多くの練習、身につけてきた技術を信じてあげられなかった。今結果を見返しても悔しい思いばかりです。

妥協のない技術と精神を身につけるため、また春自分の走りを悔いなく終わらせるために、オフィシャルの皆様、OLKのみんな、そして誰よりも今OLKのことを考え頑張るキャプテンに恩返しをするために、努力していきたいと思います。

運営の皆さま、すばらしい秋インカレをありがとうございました。

そして春、リレー連覇、獲るぞ東大。

6 稲森 剛 1:25:09 横浜国立大学

スタートして地図を見た時の果てしなくオリエンテーリングを続けられそうな感じや、コントロールからコントロールへと足を進めていくうちに段々と会場が近づいてくる感じ、ミスや想定外の事があっても諦めずに走り切れば良い結果が得られるところ。ロングが最も好きな種目です。前日のスプリントでは、立入禁止を通過したために記録を残せず、悲しい思いをしました。KOLCから桃井、上島、伊藤樹が表彰に上がっているのを見て、明日こそという気持ちになれました。また、何となく重荷になっていたインカレ個人レースでの連続入賞も消えて、重圧や大きな不安を抱えること無く前向きな気持ちで出走することができました。

レースでは、スプリントの筋肉痛を感じて序盤でペースを抑えなければいけなかったり、事前の予想で正解が分かっていたはずのルートチョイスでミスルートを選んでしまったりもしましたが、終盤に入るまではまずまずのレースが出来ました。しかし、終盤の終盤に扇状地エリアは得意だからと気を緩めてしまった結果、大きなミスをしてしまいました。その大ミスの後は、すぐに切り替えられて、良い走りをして入賞に滑り込めたのはよかったと思います。

次の春インカレは、最後のインカレです。4年間をともにしてきた仲間やライバル達と最高のレースをしたいと思います。

2.4 ロング・ディスタンス競技部門 女子選手権

1 増澤 すず 0:58:32 筑波大学

昨年は運良く準優勝してしまいましたが、今年は優勝を目標とし、優勝するために徹底的に対策をし、優勝という結果を残すことができ本当に嬉しく思います。

順位には満足していますがレース内容は納得のいくものではありませんでした。全体的に小さなミスは何度も繰り返し、また前半は緊張から全く走れませんでした。しかし課題としていたロングレグのルートチョイスで2本とも1位ラップを取ることができたのは昨年に比べて大きく成長できた部分であり、これが今回の勝因かなと思います。

大好きなロングをインカレで走れるのはあつという間にあと1回になってしまいました。来年は

今よりもっと強い選手になれるよう、これからまた頑張っていきます。

最後に、このような素晴らしい舞台を準備して下さった運営者の皆さま並びに応援して下さった皆さま、本当にありがとうございました。

2 勝山佳恵 1:00:54 茨城大学

最後のインカレロングは準優勝でした。三連覇という目標には届きませんでしたが、レース中の声援や、ゴール後に駆け寄って来てくれた茨大の先輩後輩の温かさをたくさん感じる事ができました。とても嬉しかったです。

今年度は特にフィジカル面の強化に力を入れてきました。以前より走れるようにはなったものの、ロングレグのルートチョイスやスタ1の遅さなど、前から苦手としてきた面を克服する事ができませんでした。なかなか納得のいくレースは出来ませんが、これが今の実力です。増澤選手や伊部選手などが活躍するなかで、自分も負けぬように強くなっていきます。私には、個人種目はあとミドルしか残されていません。最後に笑って終われるように、あと残り数か月間オリエンテーリングと向き合っていきたいと思います。望郷の森、今からとても楽しみです。

最後になりましたが、運営者の皆さんや応援して下さい下さった方々、本当にありがとうございました。

3 伊部 琴美 1:01:08 名古屋大学

3位という順位は優勝を目指していたので悔しかったです。でも、初のロング選手権クラスで尊敬する先輩方が沢山いる中で走れてこの順位は嬉しい気持ちもあります。振り返ってみるとロングレグのミスが響いた感じなのでもっと成長したいです。

このレースは最初から応援の声が聞こえて来て、ビジュアルでも多くの方が応援してくれて、最後の登りも応援の声が聞こえたから頑張れて、応援の力は本当にすごいと改めて感じる事ができました。ありがとうございます。

最後になりますが運営者の方々ありがとうございました。

4 香取 菜穂 1:02:14 千葉大学

昨年からオリエンテーリングをする機会が減ってしまい、不調であったこともあり、今回のインカレロングは全く自信がない状態で臨みました。それでも直前の2か月くらいは毎週オリエンテーリングできていたので、落ち着いていけばもしかしたら枠取れるかな、くらいに考えていました。

レース中は、ガツガツ走るところと、スピードを落とすところのバランスがうまくいったと思います。アタックを慎重に行ったところ、いつもよりスムーズにきました。

自分の思い通りのレースができるとオリエンテーリングは楽しいということを今さらですが実感しました。入賞にこだわらず、周りの目も気にせず、自分が落ち着いてレースをすることだけを意識し、気負わない走りをした結果、思っていたより遥かに良い順位が取れて驚きました。後半はバテってしまったものの、今年で1番楽しいと思えたレースでした。

今回のインカレでオリエンテーリングの楽しさを再認識する事ができました。大会を運営して下さった皆様、応援して下さい下さった皆様、本当にありがとうございました。

5 伊佐野 はる香 1:03:47 東北大学

あの時に出来得たパフォーマンスとして、最高と言う事は難しいものの及第点ではあったので、その結果が一昨年のロング入賞成績を一つでも更新する結果となったことは嬉しく思います。しかしながら本当はもっと上を目指していたため届かなくて悔しいと思う気持ちがどうしても残っています。ロングの結果はこれ以上更新できないので、春インカレにて今度こそ最高と言えるパフォーマンスで最高の結果を手にとりたいと思います。

6 香取 瑞穂 1:04:08 立教大学

始めに、素晴らしい大会を開催して下さい下さった運営者の皆様、本当にありがとうございました。

去年のインカレでは、選手権を走る先輩方を見て鳥肌が立ち、感動したのを覚えています。そし

て、今年この舞台で走れる事が分かった時は、とても嬉しくて楽しみで仕方がなかったです。レース本番では、ビジュアル後すぐのロングレッグでルートミスをしてしまい、やってしまったと思いました。そんな時、最後まで諦めずに走り続ける事が出来たのは応援して下さった皆様のおかげです。山の中にいても聞こえてくるほどの声援で、とても力を貰えました。

結果として入賞できた事は、たとえまぐれであっても本当に嬉しかったです。この様になれたのも、日頃のサポートをして下さり練習の機会を沢山与えて下さった皆様、応援して下さった皆様、一緒に切磋琢磨し合えた仲間がいたからです。本当にありがとうございました。次のインカレでは、さらに上の順位を目指して頑張っていきたいと思います。



3

競技結果と解説

3.1 スプリント競技部門

コース設定者 谷川 友太

▼3.1.1 コース設定にあたり

今回のコース設定においては、トレインの使用可能な箇所の狭さが一番の課題であった。地図上で握り拳ほどの範囲で優勝設定時間を出さなければならず、2 マップや参加者駐車場の利用などでコース距離を確保することとなった。渉外担当の方からは「城跡まで登らせれば良い」「テープとコーンならいくらでもある」など多くの打開案をいただいたが、それらについてはスプリント競技であることから貴重な意見として受け取るにとどめた。

演出などの面では、スタートを会場のステージと考えていたが、スタート前の競技者の動きから使用可能な範囲がさらに狭まるため断念した。その代わりではないが、スタートしてすぐ会場から見えるコントロールを置き、中盤でも会場を通し会場の観戦者から何度も選手が見える回しとした。また見せる競技であるということ意識し、コントロール位置の設定を行った。

ルート選択については、各レグでできる限り複数のルートがあるよう努めたが、障害物を左右どちらに避けるかという単調な課題が続いてしまった部分は否めない。ルートによる差も小さなものが多かったため、ナビゲーションの簡単な方を選べばよいという結果となった。もう少し多様な課題を盛り込めるとなお良かった。

▼3.1.2 コース解説

ルート比較については、観戦ガイドでも触れているため、紙面の関係からここでは差のついたもの、ルートの分かれたもの等、ポイントとなるいくつかのレグにとどめておく。

△→1 (M,W 共通)

スタート直後に池を渡るレグ。試走では、池の中を通ると右に避けるのとでは、池の中を通った方が4,5秒速いという結果だったが、この場で見ていた観戦者によると実際に池の中を通った選手は、男子の5名のみとのことだった。その中でも躊躇わずにアタックをしたのは稲森選手のみとのこと、タイムは41秒。これは4位のタイムである。



5→6 (M,W)

駐車場を右から巻く青をベストルートと想定していたが、入賞者は男女全て赤の方を選択している。他の選手についても見ている限りでは赤の方を選択している選手が多かった。前走者の尾崎、森清は共に青を選択しているが、どちらも男子入賞者より遅いタイムだった。

11→12 (M,W)

赤の方が短いに登りを含み、青は階段がある。赤の方が入賞者の中では出田のみが青のルートを取っており、ラップを見ると差はそこまで無さそうだ。



ME13→14

今回のコースで最も差のついたレッグ。想定は青のレッグだったが、入賞者の桃井、伴がこのルートを選択し、それぞれレッグ1位2位を取り、他のルートを取った入賞者に10秒以上つけている。種市、上島が緑ルート、伊藤が緑、大橋が赤を選んでいる。

ME15→16

パターゴルフ場をどちらに巻くかだが、青の方は短いが不整地を含むため、赤の方が速いとの想定だった。入賞者では、大橋、上島が青に近いルートをとっているが、やはりこちらの方が時間がかかったようだ。



▼3.1.3 おわりに

今回のインカレスプリントはインカレスプリントとは何たるかを示す大会となりました。スプリントは見れる競技であるとのことから、今大会では競技範囲全てを観戦可能としたため、観戦者は各々テレイン内を回り競技中の選手の動きを間近で見られたかと思います。また観戦ガイドで促したこともあり競技中の写真のSNSなどへの投稿も見られ、これがオリエンテーリングの魅力の発信の一端となれば幸いです。最後になりますが、本大会に関わった方々に改めて感謝申し上げます。

▼3.2.1 コース設定にあたり

① 観客のニーズに配慮したコース設定

今回、コース設定を行うにあたり、コース設定の原則 2.3 項に記載される「**競技の公正さ・競技の楽しみ**」と「**観客のニーズ**」を両立させることを第一と考えた。観戦の楽しさに配慮し、レース序盤に会場を通過し、ロングレグのルート選択が分かれる様子を会場から視認可能とした。これは会場の盛り上げに一役を買い、良い試みであったと考える。オリエンテーリングというスポーツをより魅力的なものにするため、今後も観客のニーズを満足させるコースが提供されることを期待する。

② ロングらしいコースの提供

ロングレグに関しては、**可能な限り「長く」、「多様なルート選択」を迫るレグ**となるように設定した。また、後半の扇状地エリアでは選手権の舞台にふさわしいコースとなるように、積極的に技術難度の高いコントロール位置を選定した。

③ ウイニング設定の負荷減及び定量化の試み

ME クラスのウイニング設定に関しては、実際の試走時のキロタイムを参考に推測し、概ね想定通りの結果とすることが出来た。その他のクラスに関しては、IOF による世界マスターズ選手権のガイドラインを参考の上、それぞれのクラスで参考とする年齢別クラスを設定し、相対速度をベースにウイニング設定を実施した。試走時にすべてのクラスを走るのは負荷が高く、また試走者のレベルのばらつきも大きく、適切なウイニング予測が出来ない可能性がある。この方法であれば、定量的な指標でもってウイニング設定が可能となるため、推奨したい。

	クラス名	相対速度			ウイニング				
		比率	参考	キロタイム	レグ距離	推測	要項3	結果	割合(結果/要項3)
選手権	ME	1.00	ME	7.50	10.1	76	75	78	104%
選手権	WE	0.78	WE	9.66	6.4	62	60	59	98%
一般	MUL1	0.91	M35	8.24	5	41	40	45	113%
一般	MUL2	0.91	M35	8.24	4.8	40	40	44	110%
一般	MUL3	0.91	M35	8.24	4.9	40	40	40	100%
一般	MUS	0.81	M50	9.23	3	28	30	26	87%
一般	MUF1	0.85	M18	8.87	3	27	25	29	116%
一般	MUF2	0.85	M18	8.87	2.8	25	25	22	88%
一般	WUL	0.68	W40	10.98	3.1	34	35	34	97%
一般	WUS	0.58	W55	12.99	2.1	27	25	29	116%
一般	WUF	0.66	W18	11.39	1.9	22	25	18	72%
併設	AL	1.00	ME	7.50	8.1	61	60	69	115%
併設	AS	0.91	M35	8.24	3	25	25	27	108%
併設	B	0.66	W18	11.39	1.9	22	25	36	144%

▼3.2.2 男子選手権コース解説

合計	柴沼健	種市雅	大橋陽	濱宇津	佐藤遼	稲森剛
	1:17:39	1:17:49	1:22:48	1:22:57	1:23:18	1:25:09

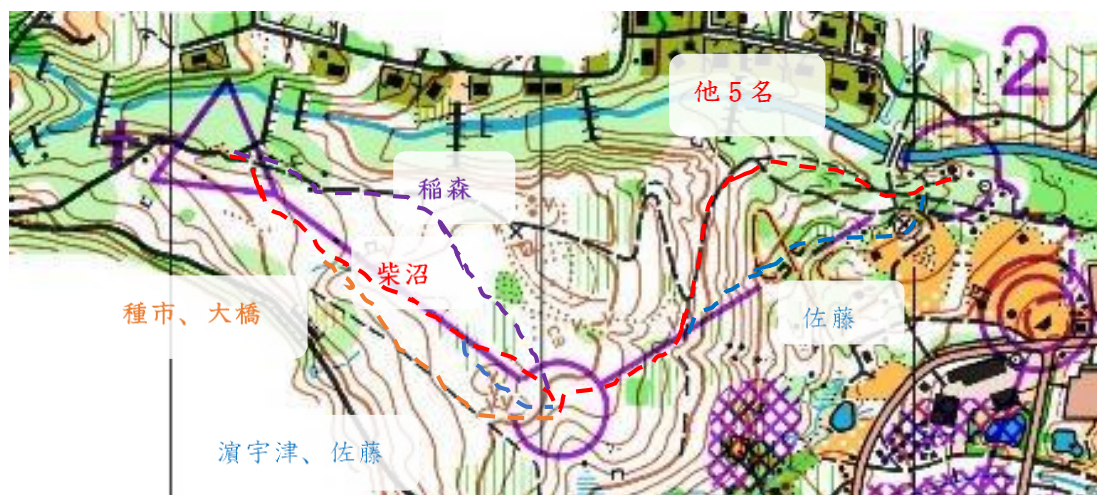
上位入賞者は上記の通りであり、東大 4 名(種市選手、大橋選手、濱宇津選手、佐藤選手)、早稲田大 1 名(柴沼選手)、横国大 1 名(稲森選手)と関東地方の選手が上位を占める結果となった。

△→1	伊藤樹	佐藤遼	三浦一	殿垣佳	稲森剛	長岡凌
	1:52	1:57	1:58	1:59	2:03	2:04

スタート直後の直進レグ。緩斜面での方向維持が課題。横国大・伊藤樹選手(13位)がトップの好発進。

1→2	種市雅 1:58	稲森剛 2:09	宮本樹 2:11	横山裕 2:12	北見匠 2:15	濱宇津 2:15
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

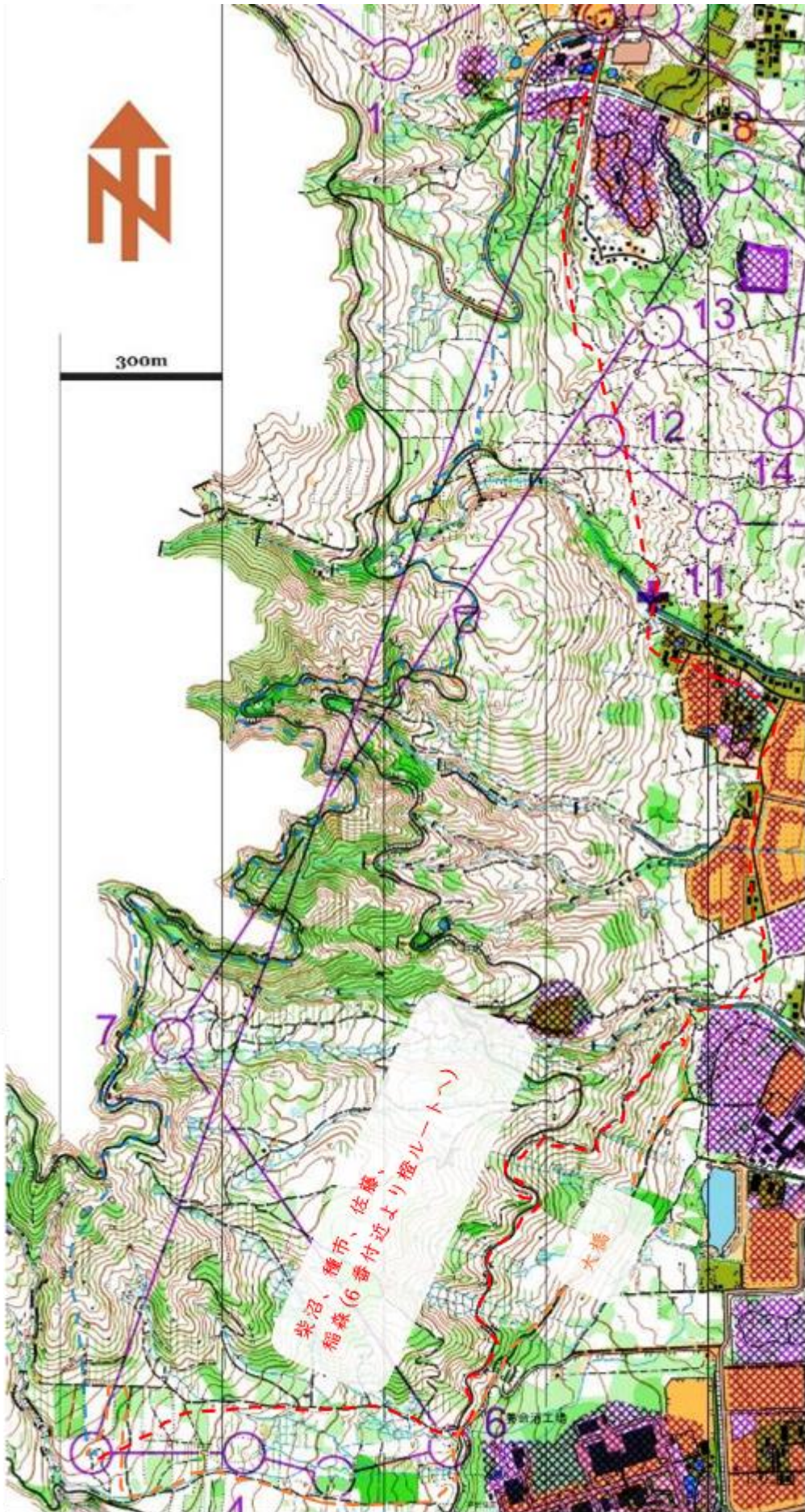
ビジュアル通過前のつなぎのレッグ。積算タイムで種市選手が2番コントロール(ほぼ会場ビジュアル)をトップタイムで通過。次に稲森選手、名大・三浦選手(53位)と続く。三浦選手は直後のロングレッグで大きなミスをし、早々と入賞戦線から脱落した。



2→3	種市雅 20:56	柴沼健 21:16	森河俊 22:28	大橋陽 22:41	稲森剛 22:54	伴広輝 23:13
-----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

本コース最長のロングレッグ。種市選手がトップタイムをマークし、2位柴沼選手と積算で43秒の差をつける。大橋選手は好タイムをマークするも、アタックでミスをした模様(大橋選手のルートがプランナー想定ベストに近い)。入賞外では、京大・森河選手(7位)、伴選手(15位)が好タイムをマーク(おそらく、同等のルートと推測する。)入賞者の中では、濱宇津選手のみが斜面上の蛇行する小径を活用するルートを選択し、25:58と少し出遅れる結果となった。ここまではロングレッグにおけるルート選択で結果が大きく分かれている。

瀬守津



3→4	伊藤樹 1:33	稲森剛 1:42	横山裕 1:44	種市雅 1:44	大橋陽 1:44	伴広輝 1:45
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

道走り主体のロングレグとは打って変わって、下り基調でスピードが出る中で、ナビゲーションカを問うレグが続く。柴沼選手が 42 秒のミスタイムで、種市選手との差が広がる。

4→5	種市雅 0:50	横山裕 0:53	金子哲 0:54	伊藤樹 0:55	柴沼健 0:56	上島浩 0:56
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

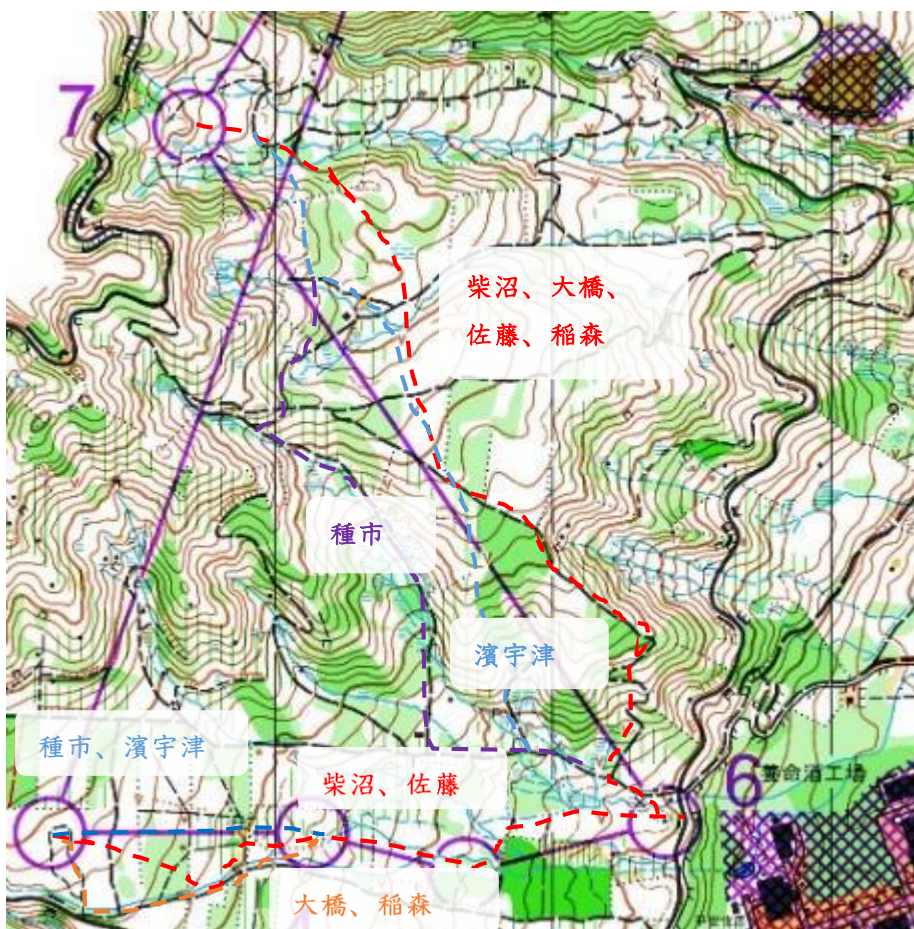
種市選手がトップタイム。東北大・横山選手(10位)が 3→4 で 3位、4→5 で 2位ラップと気を吐き、順位を 7位まで上げ、入賞争いに迫る。

5→6	伊藤樹 1:12	佐藤遼 1:12	岩井龍 1:12	種市雅 1:13	殿垣佳 1:14	濱宇津 1:15
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

7位の 1:16 のタイムをマークした、森河選手がこの時点で 6位と入賞圏内に浮上する。

6→7	中村僚 9:47	大橋陽 9:52	江野弘 10:01	伊藤光 10:11	種市雅 10:20	柴沼健 10:21
-----	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------

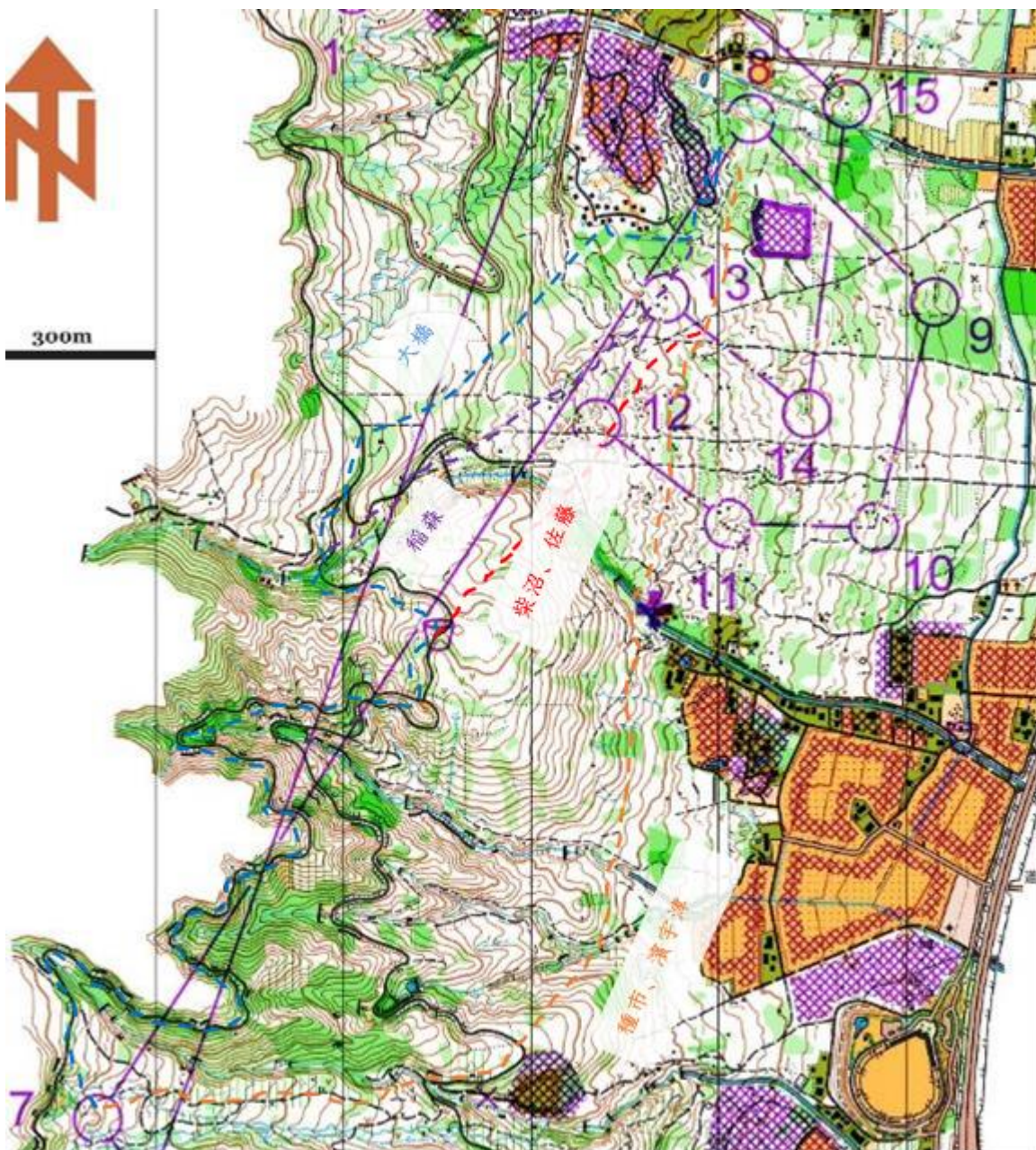
覚悟を問う登坂レグ。入賞者内で活用する小径が分かれているが大きな差はついていない。入賞者外では東大・中村選手(17位)、慶応義塾・江野選手(55位)、東北・伊藤光選手(29位)の登坂力には見るものがある。



7→8	濱宇津 14:24	種市雅 14:37	殿垣佳 16:01	柴沼健 16:15	竹内公 16:18	佐藤遼 16:20
-----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

2 番目の長さを誇る勝負レグ。濱宇津選手、種市選手がプランナー想定ベストルートで好タイムをマークする。別ルートを選択した柴沼選手と比較し、2分弱の差がついた。入賞者外ではルートは不明ながら、東大・殿垣選手(12位)、名大・竹内選手(11位)が好タイムをマークするも、2→3のロングレグでの出遅れが響き、入賞圏内には届かなかった。

この時点でトップの種市選手は2位の柴沼選手と3分をつけ、このまま逃げ切るかと思われた。3位の佐藤選手とはさらに2分の差をつけており、概ね、優勝争いは種市選手・柴沼選手の2名に絞られる形となった。この時点の入賞圏内の6名は、最終の入賞者と同一であり、ある程度こままで入賞争いは決した形となった。

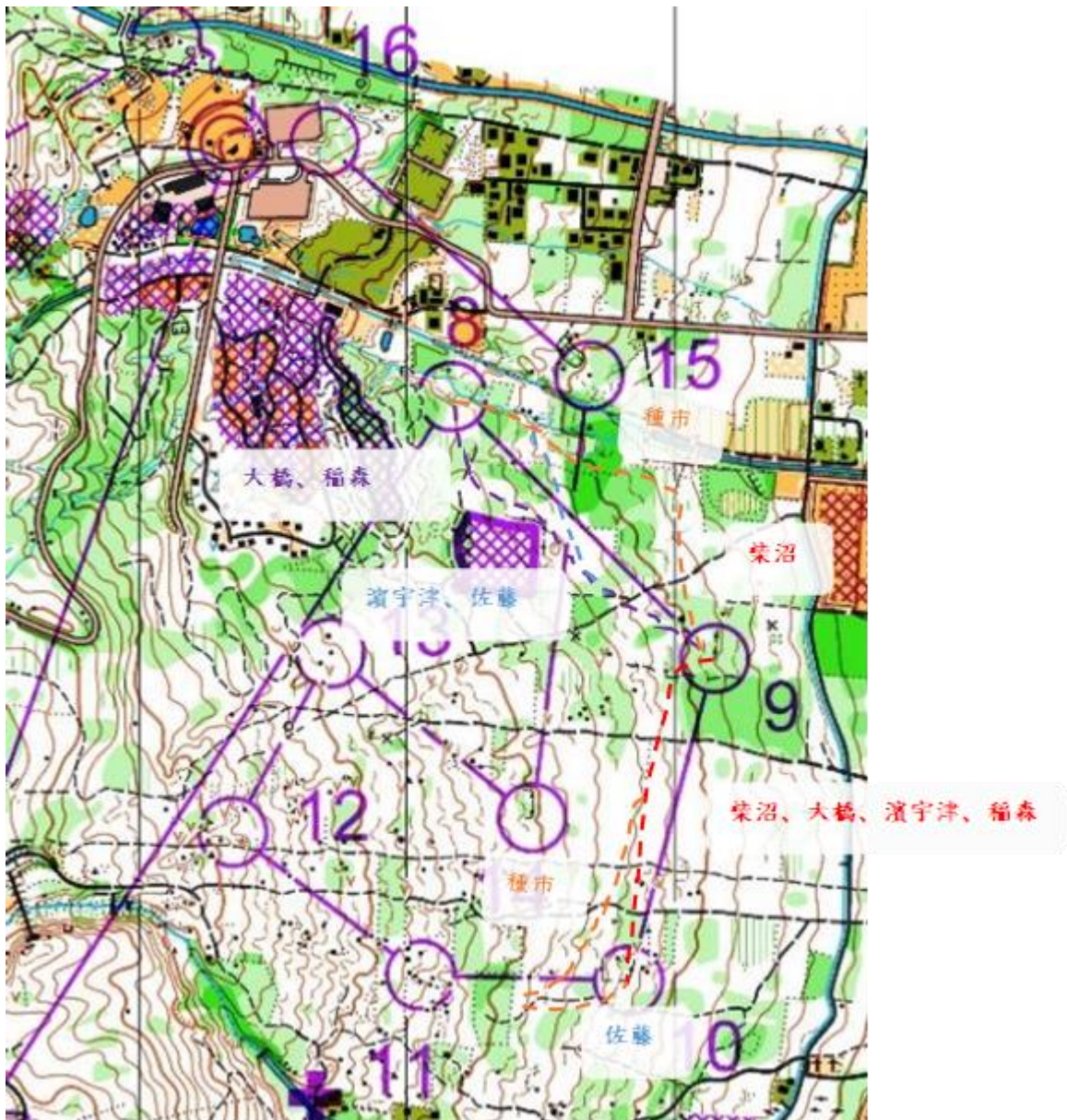


8→9	上島浩 2:42	稲森剛 2:43	松本萌 2:48	村井智 2:54	濱宇津 2:55	佐藤遼 3:07
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

本コース中、最も難易度が高いレグ。Bヤブの中の水罫に対して慎重なアタックが求められる。レグ線付近の道の分岐、岩を確認してのアタックが良い。入賞者外では慶応義塾・上島選手(20位)、京大・松本選手(30位)といった技術派の選手が好タイムをマークした。また、上位入賞者の柴沼選手、種市選手、大橋選手がそろってミスタイムを計上した。

9→10	柴沼健 2:37	濱宇津 2:40	稲森剛 2:42	大橋陽 2:43	田中創 2:47	長谷川 2:48
------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

扇状地エリアでのテクニカルなレグが続く。種市選手が2:19のミスタイムを計上し、2位の柴沼選手との差が44秒まで縮まる。1つのミスで逆転可能な展開に。また、大阪・田中選手(22位)がこの後の10→11、11→12 含め好タイムをマークした。



10→11	種市雅 1:50	櫻井一 2:00	柴沼健 2:05	田中創 2:07	桃井陽 2:11	小原和 2:12
-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

コントロール手前のやぶのこなし方で少し差がつくか。

11→12	種市雅 2:16	森河俊 2:19	櫻井一 2:21	田中創 2:21	小牧弘 2:21	下江健 2:21
-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

終盤での登り主体となる厳しいレッグが続く。疲れに負けて、ナビゲーションが疎かになると大きなミスを生む恐れがある。稲森選手は6:10と大きなミスを犯し、10位まで順位を下げた。また、2レッグ続けて、種市選手がトップラップの好走を見せ、柴沼選手との差を1分16秒まで広げる。

12→13	稲森剛 1:14	前野達 1:19	金子哲 1:23	佐藤遼 1:23	柴沼健 1:24	川島聖 1:26
-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

南西に伸びる沢にエイミングオフ気味に直進し、コントロールに辿りつくのが早い。

13→14	柴沼健 1:35	稲森剛 1:42	濱宇津 1:46	長岡凌 1:48	山本哲 1:48	大橋陽 1:51
-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

沢や植生を頼りに緩斜面を直進する。種市選手がここで1:36の痛恨のミス。柴沼選手に逆転を許す。

14→15	種市雅 3:06	稲森剛 3:13	宮本樹 3:24	岩井龍 3:24	濱宇津 3:26	松本萌 3:29
-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

種市選手がトップラップの好走で、この時点で柴沼選手と同タイム。勝負は会場までの道走りに託された。また、稲森選手がミス後のレッグで1位、2位、2位の好ラップで巻き返しを図り、入賞戦線に復帰した(この時点で5秒差の7位)。

15→16	小牧弘 2:03	柴沼健 2:12	浅井寛 2:14	伊藤光 2:14	中村僚 2:18	櫻井一 2:19
-------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

勝負の道走り。柴沼選手が2位ラップで種市選手に10秒差を付け、優勝を手中に収めた。また、筑波・小牧選手(26位)がトップラップをたたき出し、さすがの走り。

16→◎	伊藤光 0:26	小牧弘 0:30	衣笠舜 0:30	若松甫 0:30	清水俊 0:31	川島聖 0:31
------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

最終コントロールまでのレッグを制したのは、東北・伊藤選手(29位)。終盤のラストスパートは見事であった。

▼3.2.3 女子選手権コース解説

合計	増澤す 0:58:32	勝山佳 1:00:54	伊部琴 1:01:08	香取菜 1:02:14	伊佐野 1:03:47	香取瑞 1:04:08
----	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

上位入賞者は上記の通りである。男子同様に関東の選手が中心を占め、名古屋・伊部選手、東北・伊佐野選手がその中に割って入った。2→3及び4→5のロングレッグでトップタイムをマークした筑波・増澤選手が優勝しており、2本のロングレッグの出来が結果に直結したようだ。

△→1	香取菜 2:46	井村唯 2:46	稲垣秀 2:46	村田茉 2:47	宮本和 2:49	高橋ひ 2:52
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

小径からの直進レッグ。入賞者の中でも30秒程度のミスを数名おかしている。千葉・香取菜選手(4位)がトップタイムをマーク。

1→2	山岸夏 2:19	臼井沙 2:22	勝山佳 2:24	木村る 2:26	宮本和 2:29	青代香 2:29
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

男子と共通コントロールとなる2番コントロールまでのつなぎレグ。下りでの思い切りの良さが問われる。筑波・山岸選手(7位)がトップタイム。

2→3	増澤す 15:13	香取菜 15:46	佐野萌 15:49	伊東加 16:33	伊部琴 16:35	山岸夏 16:43
-----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

女子コース一番の勝負レグ。尾根の途中にある3番コントロールに対し、上からアタックするルートと、下からのルートの大きく2種のルートに分かれる。入賞者の多くは下からアタックするルート選択。唯一、茨城・勝山選手がプランナー想定外の直進ルートを選択。1:38のミスタイムとなった。

3→4	宮本和 3:49	臼井沙 3:49	香取瑞 3:53	勝山佳 4:00	伊佐野 4:04	香取菜 4:07
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

ロングレグのつなぎとなるレグ。直進ぎみに斜面を下る。少しアタックがそれた増澤選手が1:21のミス。

4→5	増澤す 13:13	香取瑞 13:29	小竹佳 13:57	臼井沙 14:13	伊佐野 14:17	伊部琴 14:22
-----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

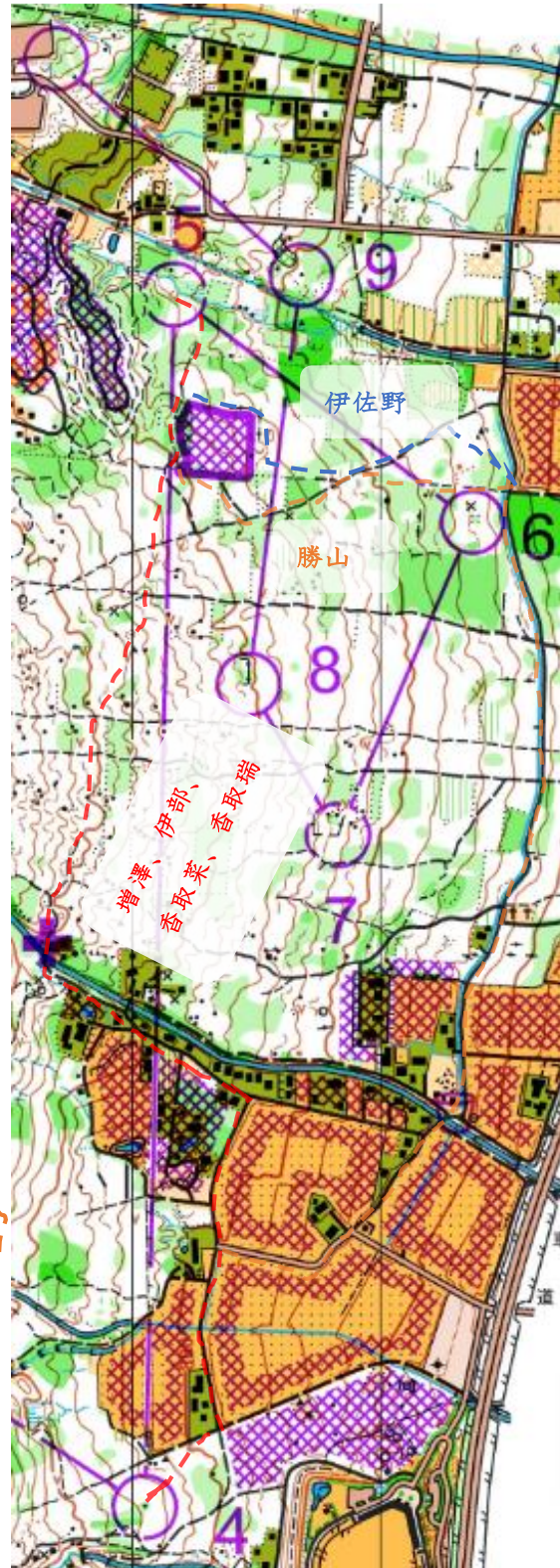
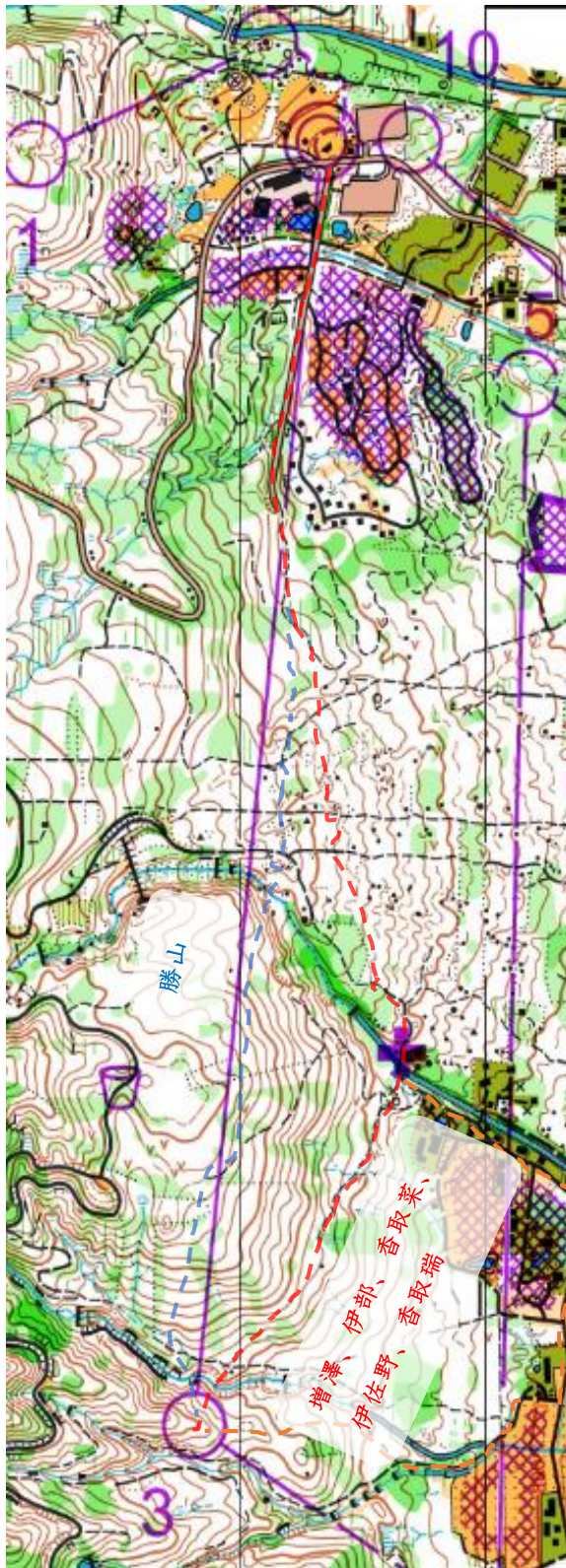
距離最短となるルート(増澤選手らが選択)が最も早い結果となったが、伊佐野選手が選択したルートもスピードの出る小径区間が多く、大きなタイム差はついていない。

5→6	宮本和 3:52	勝山佳 4:07	伊部琴 4:16	森谷風 4:24	河村優 4:34	増澤す 4:38
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

難度の高い扇状地のレグ。コントロール位置がわかりやすい分、男子8→9より難易度は低め。筑波・宮本選手がトップラップ。宮本選手は好タイムのレグをいくつかマークするも、ロングレグでの出遅れが響き、惜しくも入賞には届かなかった。

6→7	勝山佳 4:04	伊部琴 4:27	宮本和 4:27	山岸夏 4:33	鈴木伽 4:36	高橋友 4:44
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

やぶを東にかわす選手が多いなか、勝山選手が直進を選択し、好タイムをマーク。他のレグでも惚れ惚れする直進を見せており、直進力の高さを伺わせる。



7→8	増澤す 2:12	伊佐野 2:26	香取瑞 2:27	佐野萌 2:30	伊部琴 2:33	宮本和 2:36
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

石塁から石塁へのレッグ。正確な直進のスキルが求められる。

8→9	勝山佳 4:10	増澤す 4:12	高橋友 4:32	宮本和 4:40	山岸夏 4:44	山森汐 4:47
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

扇状地での直進の精度を問うレッグが続く。ここまでの順位で1~4位までは決まっている。

9→10	佐野萌 2:39	増澤す 2:44	鈴木伽 2:44	伊部琴 2:45	伊佐野 2:48	香取瑞 2:51
------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

京女・佐野(23位)がトップタイムでその登坂力を見せつけた。伊佐野選手(積算6→5位)、香取瑞選手(積算8→7位)はここでの走りで順位を上げることに成功した。

10→◎	塚越真 0:32	増澤す 0:36	佐野萌 0:36	井村唯 0:37	伊部琴 0:39	香取瑞 0:39
------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

香取瑞選手が山岸選手を1秒かわし、入賞圏内に滑り込んだ。大阪・塚越選手(21位)が必至のラストスパート。

3.3 調査依頼と提訴の回答

競技責任者 嶋岡 雅浩

▼3.3.1 スプリント競技部門

本大会において4件の調査依頼があり、その回答に対し1件の提訴があった。調査依頼のうち、3件が競技エリア内の植え込みに関する事項であり、1件は競技者と観戦者の衝突に関する事項であった。

いかに植え込みに関する提訴内容とその回答および今後の対策について記載する。競技者と観戦者の接触に関しては、4.3.3 安全対策で述べる。

▽植え込みに関して

➤ 提訴内容

主曲線と最小寸法のはばはほぼ一緒であり、十分地図目視で該当箇所は通過可能と判断でき、また現地も明らかに地図表現及びテープ表示が適切でなく通過可能であると判断するに足る。

また、JSSOM2007は特色印刷を推奨していて、JSOM2007重ね印刷(重なり合った部分の下にある色の情報を完全に消すことにはならないようにしなければならないと記載があり、地図図式に反していると思われる。

よって調査依頼への回答に不服であり、再度失格の取り消しもしくは競技不成立を求める。

➤ 裁定委員による回答

地図表記は最適であるとはいえないが適切である。地図表記に従うのは選手の義務である。

よって失格の取り消しは行わない。

➤ 対策

本大会では通行が想定される箇所、一部の立入禁止区域もしくは安全確保のために必要な箇所に、一般クラスおよび併設大会の競技終了後に青黄テープを配置した。しかしながら地図ではなく現地で判断したことによる通過者が生じてしまった。青黄テープの現地への配置は人員、コストを要するため競技エリア内すべてに実施することは非常に困難である。今後、競技者が地図からの判断ではなく現地における判断を重視するのであれば、その準備に応じた参加費の増額が必要であると考える。

また、競技用地図に関しては重ね印刷を実施するべきであった。地図調査を行う業者、印刷業者、競技責任者で慎重に確認を進めていくべきである。

▼3.3.2 ロング・ディスタンス競技部門

調査依頼はありませんでした。

4

大会運営報告

4.1 大会企画の経緯

大会実行委員長 細川 知希

▼4.1.1 開催地の決定

2016年3月理事会にて、日本学連副会長も務める(有)ヤマカワオーエンタープライズ（以下、YMOE社と呼称）山川克則氏より、地図著作権・渉外資産を有している駒ヶ根高原での開催の提案があり開催地が決定した。秋インカレはフランチャイズ制であるが、応募がなく関係者が手持ちをカードを切りざるを得ない実情であった。

▼4.1.2 実行委員会の発足

YMOE社単独での運営は困難なことから、過去インカレ運営経験者を多数有する地域クラブ OLCルーパーに協業運営の打診があり、事前に明確な業務の分担を取り決めた上で、受諾する形で実行委員会が発足した。具体的には、YMOE社が地図作製業務・渉外業務・資材管理業務・地図印刷業務を、OLCルーパーが事前準備および本大会当日の運営指揮・コースの設定・広報事業・会計管理他を担うこととした。その際、大会によって得られた利益の取り扱いや納期遅延に関する取り決めも含め、協業契約書の形でまとめ、両者間で締結した。

▼4.1.3 詳細なトレイン選定

ロング・ディスタンス競技部門に関しては、競技を開催するに値する十分な広さの地図資産を有しており、全域を活用する方針とした。スプリント競技に関しても、ロング同様地図資産を有していたものの、トレイン内にキャンプ地やロッジなど一般利用客との兼ね合いのため、使用できないエリアが多いという問題点があった。そのため、コース設定時に非常に制約があり、スプリント競技を実施するトレインとして適切とは言えなかった。しかし、既に渉外が進み、実行委員会の発足していた中でトレイン変更をすることは不可能であった。上述のトレイン制約の都合上、実施規則の優勝設定時間を実現できないと判断したため、理事会に実施規則の不適用条項の申請を行い、スプリント競技部門を開催するに至った。

▼4.2.1 はじめに

本項では大会準備全般の進行について報告を行う。

▼4.2.2 活動の概要

下記に記載の日程にて準備を行った。尚、競技に関わる事項については 4.3 および 4.4 項にて記載のため本項では割愛する。

月	活動内容	詳細/備考
2018	1 活動開始	主要役職を選定し、準備を開始した。
	2 事前交渉①	2/4(日)に行われた山リハリレー会場にて以下の2点について議論を行った。 ・業務分担 ・契約締結の打診
	3 事前交渉②	3/11(日)に行われたインカレミドル・リレーの会場にて以下の2点を実施した。 ・EAの指名 ・契約内容の交渉
	要項1 公開	-
	4 事前交渉③	電話会議にて契約内容の詳細を交渉した。
	5 要項2 公開	-
	6 試走会①	6/23-24(土・日)に現地にて以下の事項を実施。 ・協業契約締結 ・家族旅行村への挨拶 ・会場（施設・駐車場・トイレ・資材）の確認 ・テレインの確認→コースの検討 ・併設大会/アフターイベントの企画
	7 試走会②	7/28-29(土・日)に現地にて以下の事項を実施。 ・コースの検討 ・資材運搬計画 ・要項3 作成準備 ・各パート残課題の整理
	試走会③	8/11-12(土・日)に現地にて以下の事項を実施。 ・コースの検討 ・要項3 作成準備 ・各パート残課題の整理
	8 直前準備①	8/25-26(土・日)に現地にて以下の事項を実施 ・要項3 作成 ・資材運搬(ヤマカワハウス/山川家→現地) ・資材整理,調達,作成 ・地図のシーリング
	要項3 公開	-
	9 直前準備②	9/8-9(土・日)に現地にて以下の事項を実施 ・当日タイムスケジュール策定 ・EMIT組み立て→設置→コントロール位置確認 ・資材整理,調達,作成 ・配布物作成 ・演出素材作成
	大会当日	-

▽契約の締結

本大会の主要運営者が過去に経験したインカレ運営において、YMOE 社による大幅な業務遅延が発生したことを鑑み、本大会では協業契約といった形を採った。これは書面にて「協業を行う

上での基本的なルール」「運営の根幹に関わる業務の納期」「自責による業務遅延に対する罰則」「大会実施によって生まれた利益の分配方法」等を明記することが目的である。結果として一部業務に数日の遅れは発生したものの、致命的な遅延は発生しなかったことから書面による契約に一定の効果があったと考える。

▽エントリーの締め切り

実施規則 6.1 に則りエントリー締切を 7/20 とした(大会 8 週間前を締切とし、エントリーリストの作成・公開の期間を確保した)が、複数の地区学連から締切延長の申し出があった。これは「選考会が締切後にあること」「選考会後に地区学連内での推薦枠等による選手選考を行うこと」が理由であった。いずれも各地区学連の内的要因による申し出のため、締切の延長は行わずに「申し込み締め切りまでに仮の選手名簿を提出すること」「実施規則 6.1 及び 6.2 に則り、選手の変更を行うこと」で対処した。結果的に大きな混乱もなくエントリーを受け付けたが、選手の選考を行う際は実施規則を確認した上で日程の選定を行っていただきたい。

▼4.2.3 組織編制

前述の通り YNOE 社と OLC ルーパーによる協業によって執り行った。実行委員会の詳細は 8.1 項に記載の通りである。

計 45 名からなる実行委員会となったが、昨年度実績の 70 名と比較して少人数の運営となった。これはトレインによる制約が少なかったことに起因するが、直近のインカレが東海地方周辺に集中していること(2016 年度ミドル・リレー、2017 年度スプリント・ロング、2018 年度ミドル・リレー)による人材不足も存在した。

▼4.2.4 資材の手配

日本学連所有の資材・YMOE 社所有の資材・現地での調達資材を用いて大会を運営した。特に YMOE 社所有の資材については前述の協業契約書に借用に関する条項を設けた。

▽運搬計画

事前に必要な資材の数量を明確にすることで、運搬及び現地での管理の効率化を行った。特に遠方からの輸送となる日本学連・YMOE 社所有の資材を最小限に留めることに注力した。ただし、依然としてこれら資材の所在地の把握を山川氏に依存した状態にあり、本大会においても運搬計画立案の遅れの一因となった。

▽機材の破損

資材所有者の YMOE 社から競技に使用する機材(主にアングル・EMIT)の破損が目立ったとの報告があった。これらの機材の破損は昨今増加傾向とのことであり、今後の動向に注視する必要があると考える。

▼4.3.1 競技地図の作成

計画

- ◇ 競技地図作成は YMOE 社に委託。
- ◇ 地図調査（1 次）の締切日を 2018 年 7 月 27 日に設定。
- ◇ 第 2 回試走（2018 年 7 月 28,29 日）時に修正箇所洗い出し（1 次）を実施。2018 年 7 月 31 日までに修正箇所を指摘。
- ◇ 最終試走（2018 年 8 月 11,12 日）時に修正箇所洗い出し（2 次）を実施。2018 年 8 月 12 日に修正箇所を指摘。
- ◇ 2018 年 8 月 20 日までに YMOE 社が競技用地図（レイアウト、コース記号のオーバープリントも含む）を作製、2018 年 8 月 22 日までに完成地図検品。
- ◇ 3 週間前準備（2018 年 8 月 25,26 日）で一般クラス、併設大会のシーリング。
- ◇ 選手権クラスは競技責任者が監督のもと大会当日までにシーリング。

実施

- ◇ 第 2 回試走時に地図調査 1 次では何も調査がなされていないことを確認した。
- ◇ 最終試走時に要修正箇所の指摘、競技用の修正希望箇所の伝達を行った。
- ◇ 2018 年 8 月 14 日にコースデータを提出（コース設定者より）。
- ◇ 2018 年 8 月 22-24 日の間に順次競技用地図を YMOE 社が提出。提出後、確認と修正箇所の指摘。
- ◇ 2018 年 8 月 25 日の朝に地図納品。一般クラスおよび併設大会のシーリングを 3 週間前準備で実施。

提言等

本大会では締結した協業契約における実施計画に従い印刷までの計画を作成した。しかしながら、地図調査（1 次）後の地図の提出の遅れ、競技用地図の作製の遅れが生じた。特に一般クラスと併設大会の競技用地図に関しては地図納品前日の昼頃に YMOE 社から検品用地図が提出され非常に短時間で確認と修正箇所の指摘をせざるを得なかった。これらが影響し、第 2 回試走における細かいコントロール位置の検討や各クラスの競技用地図の確認を十分に行うことができなかった。結果として一部クラスでは印刷時のコントロール位置説明の記号の間違いが生じてしまった。

また、本大会で地図印刷を行った YMOE 社は運営側が使用するソフトウェアに対応できておらず、運営側でコントロール記号や数字の位置等のすべて調整を行ったデータを YMOE 社が再度作成しなおし、それを運営側が確認するという無駄が生じており運営負担増加につながった。今後日本学生オリエンテーリング連盟は運営者の負担低減のためにも印刷業者の選択を慎重に行うべきであると考えます。

▼4.3.2 コースの設定

計画

本大会は駒ヶ根高原家族旅行村 アルプスの丘にて実施した。過去に同テレインにて行われた大会と比較し、本大会では下記のような制約がコース設定時に存在した。

- ◇ 待機所として利用できるのは、中央アルプス観光株式会社様が所有する施設のみ。
- ◇ キャンプサイトおよびケビン等の有料施設は原則使用しない（使用には各施設の使用料が必要）。
- ◇ 家族旅行村に来場される利用者の駐車場の存在。

これらを考慮した時、競技エリアとして使用可能なエリアは併設大会で用いたエリアとなり、非常に狭いエリアでの実施とせざるを得なかった。競技エリアとして、家族旅行村西側の城跡までの使用も YMOE 社から提案されたが、競技時のナビゲーション速度低下やルートチョイス

のあるレッグの設定が困難等の理由により使用しないこととした。

実施

計画に従いコース設定を進めた。フィニッシュ位置は演出等の都合ステージ前とした。当初スタート位置はステージ上を候補に考えていたが待機所の都合採用することができなかった。スタート待機所がケビンに確定したのちにスタートフラッグの位置およびスタート地区の位置を決定した。

コース設定に関しては、制約の多い競技エリアでスプリント競技を実施するために、以下の事項を採用した。

- ◇ 男子選手権と女子選手権は時間帯をずらし実施し、コースの大半は同一とする。
- ◇ マップ交換制の採用。
- ◇ 優勝設定時間を 12 分に設定。
- ◇ 大会駐車場を競技エリアとして利用。
- ◇ ルートチョイスを生み出すためにコーンを用いた障害物の作成。

提言等

コースは制約が多い中で選手権者を決定するにふさわしいものになったと考えている。今後スプリント競技部門を実施していくうえで、特に意識すべき点を挙げる。

- ◇ ルートチョイスを生み出すために、立入禁止区域を使用や運営者による障害物の作成を行う際は、公式掲示板等で一例を公表すべきである。しかしながら、すべての競技者が公式掲示板等を確認するわけではなく、一部競技者は地図図式等を理解していないこともあるため、立入禁止区域への侵入や障害物の通過は避けられない可能性もある。

また、コース設定においては、競技責任者およびコース設定者が細かい地図表現の修正を行えるよう、下見（今回は第 1 回試走）の次に試走を行う際には競技エリアの大半が調査もしくは修正が行われた地図が用意されるべきである。

▼4.3.3 安全対策

計画

本大会のテレインでは以下の点を考慮する必要があった。

- ◇ 家族旅行村への来場者の存在
- ◇ テレイン中央を通る道路の存在

そこで以下のように安全対策を行った。

- ◇ 来場者用の駐車場を立入禁止区域として設定
- ◇ 同時刻に出走する選手の多い一般クラスおよび併設大会では来場者との衝突リスクが高くなると想定される場所を立入禁止区域として設定
- ◇ 道路に対し垂直に横断する箇所を可能な限り少なくなるコース設定
- ◇ 競技者が横断する箇所への役員の配置と安全喚起

一方で安全性が低下するリスクが存在するものの、テレイン全域の観戦者への開放も行った。

実施

本大会で生じた安全上の問題を以下に記す。

競技者が走行しているところに観戦者が飛び出したことによる観戦者と競技者の接触が発生した。これはテレイン全域を開放したことによって発生したものである。

また、一般クラスおよび併設大会の競技中に立入禁止区域である駐車場に侵入する競技者を多く確認した。

提言等

世界選手権のスプリント競技を実施される環境に近づけるために競技エリア全域の開放を行ったがこれにより接触が生じた。しかしながら、今回生じた接触は、観戦者の一般的な交通安全に対する意識の向上や、競技者の「第 29 条 29.1」の遵守により避けられると考えている。

一般クラスおよび併設大会競技者の立入禁止区域である駐車場への侵入に関しては、競技者の地図図式の理解および遵守するという意識の向上が必要であると考えられる。

今後のスプリント競技部門において安全性を確保していくには、運営団体による安全への配慮だけでなく、競技者および観戦者のスプリント競技に対する理解の向上も必要であると考えられる。運営団体による安全対策はコスト・人員等の制約を受けてしまうため、競技者および観戦者の協力が重要となる。

4.4 競技面の準備経緯（ロング・ディスタンス競技部門） 競技責任者 嶋岡 雅浩

▼4.4.1 競技地図の作成

計画

- ◇ 競技地図作成は YMOE 社に委託。
- ◇ 地図調査（1 次）の締切日を 2018 年 7 月 27 日に設定。
- ◇ 第 2 回試走（2018 年 7 月 28,29 日）時に修正箇所洗い出し（1 次）を実施。2018 年 7 月 31 日までに修正箇所を指摘。
- ◇ 最終試走（2018 年 8 月 11,12 日）時に修正箇所洗い出し（2 次）を実施。2018 年 8 月 12 日に修正箇所を指摘。
- ◇ 2018 年 8 月 20 日までに YMOE 社が競技用地図（レイアウト、コース記号のオーバープリントも含む）を作製、2018 年 8 月 22 日までに完成地図検品。
- ◇ 3 週間前準備（2018 年 8 月 25,26 日）で一般クラス、併設大会のシーリング。
- ◇ 選手権クラスは競技責任者が監督のもと大会当日までにシーリング。

実施

- ◇ 地図調査（1 次）の成果を第 2 回試走時に確認した。
- ◇ 最終試走時に要修正箇所の指摘、競技用の修正希望箇所の伝達を行った。
- ◇ 2018 年 8 月 14 日にコースデータを提出（競技責任者より）。
- ◇ 2018 年 8 月 20-23 日の間に順次競技用地図を YMOE 社が提出。提出後、確認と修正箇所の指摘。
- ◇ 2018 年 8 月 25 日の朝に地図納品。一般クラスおよび併設大会のシーリングを 3 週間前準備で実施。

提言等

競技用地図の作製および検品に関しては、スプリント競技部門と同様に遅れが生じた。

また、地図調査を委託した業者が ISOM2017 と JSOM2007 の両規則を単一の地図に適用してよいと認識していたため、運営側との調整で不要なやり取りが生まれた。

▼4.4.2 コースの設定

計画

本大会では、駒ヶ根高原の広大なエリアを十分に活かせるようなロングレグを組むことを意識してコース設定を行った。詳細に関してはロング コース解説を確認ください。

実施

フィニッシュ位置、スタート待機所、スタート地区を決定し、その後に細かいコース設定に進んだ。競技責任者としてはコース設定者が希望するコースを実現できるか否かの確認を主に行った。また、選手権の試走時はフラッグと給水を設置することで、より本番に近い環境で試走を行った。

提言等

本大会は、長年使われてきたテレインであったため、競技責任者、コース設定者ともに競技エリア内をある程度把握しており、競技エリア選定のための下見等に労力を割くことなくコース設定を進めることができた。

今後、全域にわたる下見および、1からの調査もしくは大幅な修正が必要な場合は、早い段階で競技に用いることができるレベルの地図が用意されるべきである。

▼4.4.3 安全対策

計画

本大会のテレインでは以下の点を考慮する必要があった。

- ◇ ロングレッグの起点となる会場隣のT字の分岐における安全性の確保
- ◇ 豪雨により林道の一部が決壊した箇所へ接近する競技者への配慮

実施

T字の分岐における安全性の確保にあたり、誘導の終点を芝生上に設定し、競技者が走行しながら、自動車の有無を確認できるようにした。しかしながら、運営側の思惑通りにはいかず、自動車が通行しているところに飛び出す選手を確認した。また、誘導終点周辺で観戦者がいる場所に暴言を吐きながら突入する競技者がいたことを確認した。

決壊した箇所には監視員を配置した。

また上記以外でも、観戦者で車道に広がって歩くものが多くいたため、自動車の往来の邪魔になってしまっていた。途中から当該箇所における役員による注意喚起や観戦者の応援を止めての会場全体に対する注意喚起を行った。

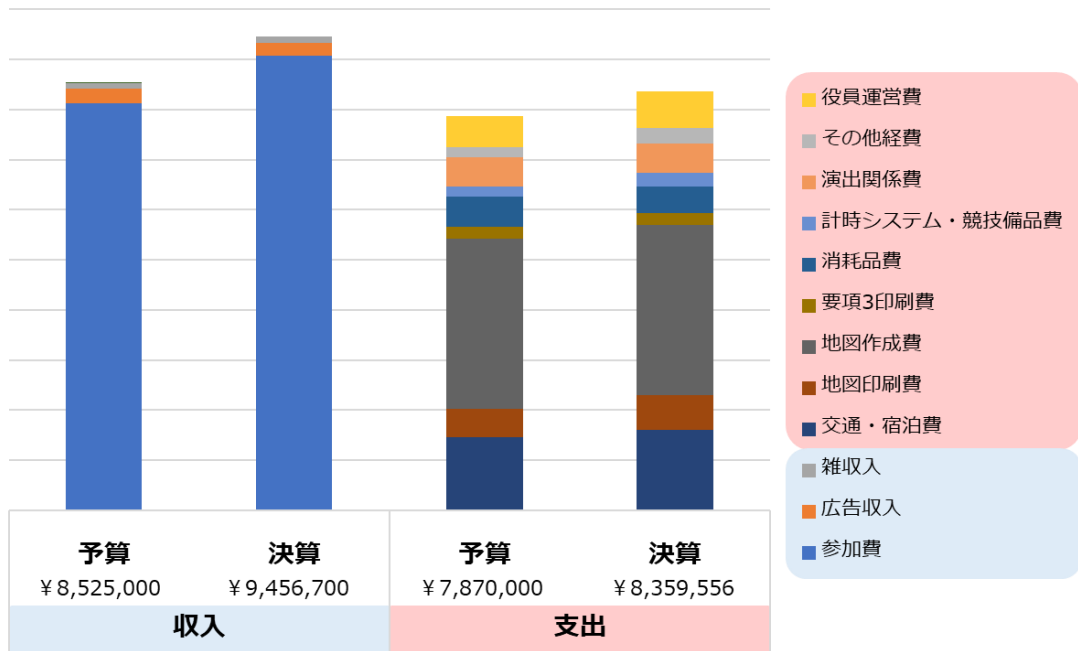
提言等

誘導の終点位置の調整を行ったが、多くの競技者が車道横断時に自動車の往来を確認していなかった。運営者による制止を行った場合数秒の静止時間をどう考慮するのかと一部競技者またはオフィシャルが質問する一方で、各競技者による安全への意識や一般的交通ルールの遵守、オフィシャルからの注意喚起が足りていないという印象を強く受けた。オリエンテーリングという競技はそれにかかわらない外部要因を完全に排除したクローズな環境での実施は難しく、各々が考慮すべきであるという認識を持っていただきたい。

本項では、本大会における会計業務の結果と行動についての報告、および本大会を通して得られた今後への展望を記す。筆者は運営責任者補佐という肩書であるが、主に会計と契約の管理を担当しており、本項の執筆を担当させていただく。

▼4.5.1 簡易決算報告

まず初めに、本大会において、策定した予算と最終的な決算の結果概略を以下に報告する。この結果は、スプリントおよびロングの両競技部門をまとめている。以下項目では、この結果を中心に、例年との比較を交えながら簡単な解説を行う。



▼4.5.2 会計体制

▽協業体制での進め方と取り扱い

3.2 活動実績でも記載の通り、本大会では YMOE 社と OLC ルーパーで協業契約を締結し、運営を進めてきた。協業という形式であることから、両者に会計の責任があると定義し、後述の予算案の策定や決算の確認は、互いに合意を取って進める体制となった。一方で、予算の素案作成、会計の管理、決算の整理、支払い対応などの実行的な業務については、OLC ルーパーが主体となって進めてきた。

また、本大会で生じた利益の配分もしくは損益の負担についても、同契約内でその配分比率について規定されている。なお、配分については、YMOE 社が協業でありながら外注先という立ち位置でもあるため、そのマージンも考慮したものとなっている。

▽会計状況の管理

昨年度以前から、予算と決算の乖離、大会直前期の会計状況の不明瞭性などが反省として挙がっている。本大会では、これら反省への対策として、定期的に予算状況を管理することとした。具体的には、以下タイミングで都度必ず請求の連絡をしてもらうことにした。

- ・ 各現地作業（試走・直前準備）の直後
- ・ 金額の大きい支払いが発生した際

運営者にとっては多少の手間にはなるが、すぐに請求することで、決算締めタイミングで

起こりがちな請求忘れのリスクも軽減することができると思う。

▼4.5.3 予算案の策定

会計的に大会を成功させるためにも、予算案策定時点での十分な検討は必要不可欠である。例年と比較し、本年度で注力したと思われる内容を中心に、予算案の策定経緯について以下で述べる。

▽支出項目の見直し

昨年度以前から、インカレ会計の健全化のために、支出項目の改善は要求として挙がっている。本大会では、支出項目の改善として、「①経費の削減・見直し」「②予算時点の精度向上」を掲げ、予算案の検討を行った。以下に一例を記す。

① 経費の削減・見直し

✓ 消耗品・資材リース費：

競技用看板やテント・机など備品のレンタルを極力減らす運営工夫を事前に検討し、予算を圧縮した。

✓ 要項3印刷費：

規約や歴代入賞者などをWEBページに掲載することでページ削減による印刷費削減を図った。

② 予算時点の精度向上

✓ 交通・宿泊費：

例年最もブレ幅が大きい項目である。本大会では試走や事前準備の人数を絞ったり、具体的な交通費のシミュレーションを実施したりと、出来る限りの精度向上を図った。

✓ 演出関係費：

本年も大型ビジョンの導入など予算を大きく割いた項目であるが、事前に演出内容の目星をつけ、昨年度実績から詳細に予算を詰めた。

▽運営業務の外注

業務効率化を目的として、高度なノウハウをもった人材に対して一部業務を委託し、人件費・開発費として予算を組み込んだ。

- | | | |
|---------------------|---|------------------|
| ・ 要項作成、資材管理業務 | ⇒ | 宮西山野精図 |
| ・ 演出システム開発業務 | ⇒ | 名古屋大学 OB 林 千尋さん |
| ・ 大会マスコットキャラクター作成業務 | ⇒ | 名古屋大学 OG 中村 友香さん |

▽役員運営費の見直し

大会役員が活動する上での運営費についての見直しも同時に図った。労務に対する対価というまでには程遠いが、大会役員に対して還元を行うことで、ストレスなく楽しく運営活動を行ってもらうのが狙いである。

例年、この役員運営費は、試走や大会当日の日当(昼食費)のみという認識である(宿が食事付きの場合は宿泊費に加算されることもある)。本大会では、責任者級役員(事前準備責任者および当日チーフ役員)の手当を、日当に追加する形で予算に組み込んだ。上述の工夫による削減代をこの項目に充てる形で、例年に比べ3~4倍ほどの予算の計上に踏み切った。

▽収入項目の見直し：参加費の決定

以上の支出項目を整理することで、収入項目のほとんどを占める参加費を決定した。本大会では昨年度対比で、スプリント：+約500円、ロング：+約200円としている。参加費増額に踏み切ったのは、昨年度大会では大きな収入源となった補助金が本大会では無いこと、地図

作製費用が例年に比べ高額であったことが主な理由である。

▼4.5.4 決算結果について

▽全体概要・総評

3.4.1にも示す通り、予算時点で見込んでいた利益よりもプラスで決算を締めることができた。時期や開催地、テレイン資産に恵まれた部分も大きいですが、大型ビジョンの導入や役員運営費増額など踏み切った中でのこの結果は、これまで会計的な不安が強かったインカレスプリント・ロングに一石を投じた結果になったと捉えている。

▽収入詳細

スプリントで初となる一般クラスや、アフターイベントの導入により、参加者数が想定よりも伸び、対予算で大幅な収入増加となった。また、単独開催となり参加者減が不安事項であったモデルイベント参加者数も、想定通りとなり収入を助けている。事前計画や広報活動が幸いして、総じて余裕のある収入となったと考えている。

▽支出詳細

対予算では支出も増額となっているが、地図印刷費など参加者数の増加に対応するために増えた支出が多く、概ね予算の想定範囲であり、例年に比べ変動幅も小さく抑えられている。

また、会計状況の管理を強化したことにより、大会直前期にも予算残高を詳細に把握することができ、急な消耗品購入など、突発的な案件についてもコントロールしながら対応できた。

役員運営費については、大会直前に再検討することができ、大会当日の入浴費や、例年運営役員の負担である「運営者グッズ」についても捻出することができ、より運営者の負担を軽減できる状況を生み出すことができた。

▼4.5.5 今後のインカレにおける会計について

▽予算案の精度と会計の管理

3.4.3でも述べた通り、予算案策定時点の十分な検討は重要である。今回のような協業による実行委員会形式では、損益が生じた場合、当事者に負担が返ってきてしまう。

予算を具体的に落とし込むためには、ある程度運営のイメージがついていないと厳しい。そのため、大会立ち上げ初期のタイミングで、開催のコンセプトやコンテンツを関係者間で整理しておくことが重要であると考えます。

会計の管理体制については、本大会である程度仕組みを構築できたと考えている。手間のかかる内容ではあるが、会計的に大会を成功させるためにも必要不可欠であると考えており、是非今後のインカレでも参考にさせていただきたい。

▽健全な会計体制とインカレの持続性

インカレでの会計の健全化は、選手権大会として適正な競技を成立させること、開催地と良好な関係を築くことと並んで重要な事項であると考えます。一つのイベント運営として回すことができなければ、持続的に開催することも困難になり、協力する人も離れてしまうだろう。

そのために以下事項を今後の課題として記しておきたい。

① 収入（参加費）・支出項目の見直し

本大会である程度見直しを図ったものの、まだ改善の余地はあると考えている。また、収支ともに、その予算は時期や開催地に大きく左右される。過去の結果や考え方をベースにしながらも、その都度関係者間で十分な検討を行うべきである。参加費も変動代があることを参加者の皆さんにも認識いただけると幸いです。

② 会計面から見る大会役員に対する考え方

本大会では役員運営費増額の対応をとった。

昨年の提言にもあるが、インカレに関しては、競技の品質や安全性の確保、運営者・参加者の大人数の統制など、高度かつ時間を要する業務負担が多くなる一方で、多くのOBOGによる無償奉仕により成り立っている。ボランティア体制は決して悪いものではなく批判することもないが、事実疲弊しているという声は良く耳にする。

運営体制見直しがまず必要であるが、その一環として運営工数など「大会役員がストレスなく楽しくできる環境を整える」ことも引き続き考えていただければ、インカレの持続性につながることを考える。

最期に、会計のみならず、本大会の運営体制が、今後のインカレや地域クラブの発展に影響を与えるものであれば幸いである。毎回の試走・準備で非常に楽しく運営できたという所感を残して、報告の締めとする。

5

イベントアドバイザ報告

イベントアドバイザ 木村佳司

5.1 全般

参加された皆さま、運営に関係された皆さま、おつかれさまでした。スプリントオリエンテーリング競技、ロング・ディスタンスオリエンテーリング競技の 2018 年度学生日本一を競い合うにふさわしい競技会となりました。

今回のインカレスプリント、ロング大会は長野県駒ヶ根市の駒ヶ根高原で開催されました。このトレインは 1986 年にインカレが開催されて以来、数多くのオリエンテーリング競技会が開催されてきた伝統の場所です。このトレインと 30 年以上の付き合いがある私が今回イベントアドバイザを務めさせていただきました。

今大会の実行委員会は中京地区を中心に活動しているメンバーが主力となって構成されています。遠隔地でも開催にも関わらず、精力的に試走、運営を行っていただきました。意欲的な取り組みも、運営上の創意工夫も多数見られました。結果的に大いに盛り上がった競技会になりました。こうした実行委員会の取り組みは、素晴らしい競技会を提供したいという実行委員の情熱によってもたらされたものです。

この大会の品質を享受できることが当たり前だと思いがちですが、そんなことはありません。今回のインカレ実行委員会のメンバーの多くは、数年前までは学生としてインカレに参加する側でした。そんな彼らが理想の競技会を目指して努力して創り上げたのが、今回の大会です。

今学生の皆さんも、学生 OB になった時には、インカレを作る側に回っていただきたいです。今後も学生選手権を魅力的な競技会であるために、参加する側の情熱と、競技会を提供する情熱の二つがどうしても必要なのです。

5.2 業務実施報告

▼5.2.1 業務実施報告

イベントアドバイザは主催者の日本学生オリエンテーリング連盟を代表して、本競技会の品質管理を行なうことが求められます。結果的に、本競技会は日本学生オリエンテーリング選手権大会として十分な品質で開催されました。

実行委員会が実施した、トレインでの試走や現地での準備作業に立ち会い、判断が求められるところで判断を実施しています。そのほかプログラムなど発行物の確認を行っています。

▼5.2.2 本大会で見えた課題

本大会で顕在化した大きな課題はありません。

本節では、本大会で初めて実施した2つの施策に絞って述べる。

▼収支改善

特にインカレスプリントに関して、運営の負担が大きく赤字となっている現状にある。これまでモデルイベントと同日開催していたため、時間の都合上、スプリント選手権のみの開催とせざるを得なかった。この状況を打破するため、今回のインカレでは3日間開催とすることによりモデルイベントと切り分け、スプリントの一般競技部門を設けた。結果、多くの参加者を迎えることができ、会計面で余裕を持つことができた。3日間開催とすることで運営者の拘束時間増といった課題が増えたり、開催日が学生の夏休み期間と被る前提の話とはなるが、収支改善のための有効な手段の一つではないかと考える。

▼運営負荷低減

今回のインカレでは、運営負荷低減の観点より、旧来より慣例的に実施されてきた速報ボードおよび花束販売を取りやめた。いずれも業務負荷とそれに対する対価を天秤にかけた上で判断した。速報ボードに関しては、膨大な準備時間を要する反面、mulkaを用いたライブ速報の普及により、重要度は低下している現状ではないかと考えた。スプリントでは、競技のスピードに追いつかず、'速報'ボードとは言いがたいこと。ロングでは、昨年に続き大型ディスプレイを導入したことにより、速報ボードの代替が可能であったことなどが取りやめた理由である。いずれも、演出面を多少犠牲にし、大会の魅力を下げてしまう可能性が考えられるため、兼ね合いが非常に難しいと感じた。

7

選手権の部スタートリスト

7.1 スプリント競技部門

(★印はシード選手です)

ME [1/2]				参加人数 63
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年	
111	14:20	小原 和彦	東京工業大学 4	
112	14:21	宮本 樹	東京大学 4	
113	14:22	上野 康平	東京工業大学 4	
114	14:23	園部 駿太	東北大学 2	
115	14:24	渡辺 鷹志	慶応義塾大学 3	
116	14:25	山本 智士	名古屋大学 3	
117	14:26	豊田健登	茨城大学 2	
118	14:27	林 雅人	名古屋大学 4	
119	14:28	伴 広輝	京都大学 4	
120	14:29	中村 僚宏	東京大学 2	
121	14:30	竹内 公一	名古屋大学 4	
122	14:31	谷口 恵祐	東北大学 3	
123	14:32	山本 明史	京都大学 4	
124	14:33	渡邊 大地	東北大学 3	
125	14:34	岩井 龍之介	京都大学 3	
126	14:35	濱宇津 佑亮	東京大学 4	
127	14:36	高見澤 翔一	一橋大学 3	
128	14:37	棚橋 一樹	名古屋大学 2	
129	14:38	櫻木 高斗	東京工業大学 2	
130	14:39	長井 健太	東京農工大学 4	
131	14:40	渡邊 駿太	新潟大学 3	
132	14:41	前野 達也	名古屋大学 4	
133	14:42	金田 蓮	新潟大学 3	
134	14:43	川口 真司	名古屋大学 3	
135	14:44	小寺 義伸	東京工業大学 2	
136	14:45	上村 太城	慶応義塾大学 3	
137	14:46	岡本 洸彰	東京大学 4	
138	14:47	富田 智司	新潟大学 3	
139	14:48	澤入圭司	静岡大学 3	
140	14:49	嶋崎 渉	東北大学 2	
100	14:50	★種市 雅也	東京大学 3	
141	14:51	浅井 寛之	東京大学 2	
142	14:52	椎名 渉	東京工業大学 4	
143	14:53	殿垣 佳治	東京大学 4	
144	14:54	★柴沼 健	早稲田大学 4	
145	14:55	八重樫 篤矢	東北大学 3	
146	14:56	小松 宗一郎	新潟大学 4	
147	14:57	村井 智也	東京大学 4	
148	14:58	★桃井 陽佑	慶応義塾大学 3	
149	14:59	三浦 一将	名古屋大学 3	
150	15:00	三家本 雄貴	広島大学 2	
151	15:01	佐藤 遼平	東京大学 4	
152	15:02	★上島 浩平	慶応義塾大学 4	
153	15:03	横山 裕晃	東北大学 4	
154	15:04	川島 聖也	神戸大学 3	
155	15:05	下江 健史	広島大学 3	
156	15:06	★伊藤 樹	横浜国立大学 4	
157	15:07	石田 晴輝	東京大学 3	
158	15:08	岩垣 和也	名古屋大学 3	
159	15:09	大石 洋輔	早稲田大学 2	
160	15:10	★北見 匠	東北大学 3	
161	15:11	山本 哲也	金沢大学 3	

ME スタートリストは右上に続く

ME (2/2) 左下の続き			
162	15:12	長谷川 望	早稲田大学 3
163	15:13	青芳 龍	東北大学 3
164	15:14	★稲森 剛	横浜国立大学 4
165	15:15	椎名 晃丈	東京大学 2
166	15:16	齋藤 佑樹	早稲田大学 4
167	15:17	菅原 晨太郎	東北大学 3
168	15:18	★大橋 陽樹	東京大学 3
169	15:19	森河 俊成	京都大学 3
170	15:20	川名 竣介	東京農工大学 3
171	15:21	大森 総司	名古屋大学 2
172	15:22	★塩平 真士	北海道大学 4

WE				参加人数 36
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年	
11	13:30	和波 明日香	椋山女学園大学 2	
12	13:31	山森 汐莉	金沢大学 4	
13	13:32	河村 優花	名古屋大学 3	
14	13:33	飯田 涼芳	実践女子大学 3	
15	13:34	山森 麻未	椋山女学園大学 4	
16	13:35	出田 涼子	大阪大学 3	
17	13:36	秋山 美玲	早稲田大学 2	
18	13:37	立花 和祈	実践女子大学 4	
19	13:38	伊東 加織	東北大学 3	
20	13:39	香取 瑞穂	立教大学 2	
21	13:40	塚越真悠子	大阪大学 3	
22	13:41	小竹 佳穂	筑波大学 3	
23	13:42	世良 史佳	立教大学 2	
24	13:43	臼井 沙耶香	東北大学 4	
25	13:44	小笠原萌	奈良女子大学 2	
26	13:45	小林 美咲	十文字学園女子大学 3	
27	13:46	富永 万由	早稲田大学 2	
28	13:47	香取 菜穂	千葉大学 4	
29	13:48	村田 茉奈美	フェリス学院大学 4	
30	13:49	★勝山 佳恵	茨城大学 4	
31	13:50	八木 千尋	東京農工大学 4	
32	13:51	久野 公愛	日本女子大学 3	
33	13:52	木村 るび子	立教大学 4	
34	13:53	★高橋 友理奈	東北大学 4	
35	13:54	稲垣 秀奈美	千葉大学 4	
36	13:55	宮本 和奏	筑波大学 2	
37	13:56	金澤めぐみ	奈良女子大学 4	
38	13:57	★増澤 すず	筑波大学 3	
39	13:58	青代 香菜子	東北大学 3	
40	13:59	小野 花織	椋山女学園大学 4	
41	14:00	清野 幸	横浜国立大学 2	
42	14:01	★伊部 琴美	名古屋大学 2	
43	14:02	伊佐野 はる香	東北大学 4	
44	14:03	高橋 利奈	日本女子大学 3	
45	14:04	齋藤 百花	広島大学 3	
1	14:05	★佐野 萌子	京都女子大学 4	

7.2 ロング・ディスタンス競技部門

(★印はシード選手です)

ME [1/2]		参加人数 71	
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
11	11:30	楠 健志	筑波大学 4(500443)
12	11:32	宮本 樹	東京大学 4(185352)
13	11:34	三浦 一将	名古屋大学 3(232061)
14	11:36	桃井 陽佑	慶応義塾大学 3(505094)
15	11:38	衣笠 舜登	京都大学 2(240620)
16	11:40	渡邊 大地	東北大学 3(228173)
17	11:42	本村 汰一郎	金沢大学 4(231847)
18	11:44	大田 将司	一橋大学 4(221607)
19	11:46	浅井 寛之	東京大学 2(236019)
20	11:48	池田 匠	早稲田大学 1(502867)
21	11:50	岩井 龍之介	京都大学 3(502509)
22	11:52	竹内 公一	名古屋大学 4(220310)
23	11:54	濱宇津 佑亮	東京大学 4(221817)
24	11:56	森河 俊成	京都大学 3(505317)
25	11:58	新田見 優輝	東京大学 4(221616)
26	12:00	河北 拓人	筑波大学 3(507372)
27	12:02	太田 知也	京都大学 2(506233)
28	12:04	長谷川 望	早稲田大学 3(502197)
29	12:06	金子 哲士	東北大学 2(236043)
30	12:08	奥尾優理	茨城大学 4(221792)
31	12:10	長井 健太	東京農工大学 4(114991)
32	12:12	上野 康平	東京工業大学 4(501744)
33	12:14	殿垣 佳治	東京大学 4(221808)
34	12:16	塩平 真士	北海道大学 4
35	12:18	小原 和彦	東京工業大学 4(501021)
36	12:20	川島 聖也	神戸大学 3(502182)
37	12:22	長岡 凌生	東北大学 3(228345)
38	12:24	丸山 ゆう	京都大学 2(506242)
39	12:26	遠藤匠真	大阪大学 4(504985)
40	12:28	山内 優太	広島大学 2
41	12:30	齋藤 佑樹	早稲田大学 4(222752)
42	12:32	田中創	大阪大学 4(222733)
43	12:34	西下 遼介	慶応義塾大学 3(502499)
44	12:36	横山 裕晃	東北大学 4(200736)
45	12:38	杉本舜	大阪大学 3
46	12:40	伊藤 光祐	東北大学 3(228343)
47	12:42	和佐田 祥太郎	京都大学 1
48	12:44	川名 竣介	東京農工大学 3(240602)
49	12:46	櫻井 一樹	東京工業大学 2(210004)
50	12:48	山本 明史	京都大学 4
51	12:50	菅原 晨太郎	東北大学 3(228172)
52	12:52	大野 絢平	京都大学 3(506243)
53	12:54	中村 僚宏	東京大学 2(236047)
54	12:56	松本 萌希	京都大学 4
55	12:58	大橋 陽樹	東京大学 3(231445)
56	13:00	★上島 浩平	慶応義塾大学 4(221880)
57	13:02	下江 健史	広島大学 3(502875)
58	13:04	林 雅人	名古屋大学 4(220307)
59	13:06	村井 智也	東京大学 4(221824)
60	13:08	前野 達也	名古屋大学 4(220382)
61	13:10	★稲森 剛	横浜国立大学 4(502502)
62	13:12	清水 俊祐	慶応義塾大学 3(231723)
63	13:14	山本 哲也	金沢大学 3(231676)
64	13:16	小池 椋介	京都大学 3(506228)
65	13:18	大石 洋輔	早稲田大学 2(183067)
66	13:20	★伊藤 樹	横浜国立大学 4(221813)

ME スタートリストは右上に続く

ME (2/2)		左下の続き	
67	13:22	伴 広輝	京都大学 4
68	13:24	小牧 弘季	筑波大学 2
69	13:26	佐藤 遼平	東京大学 4(239527)
70	13:28	岩垣 和也	名古屋大学 3(231643)
71	13:30	★種市 雅也	東京大学 3(231191)
72	13:32	江野 弘太郎	慶応義塾大学 2(505266)
73	13:34	若松 甫	東京工業大学 3(233271)
74	13:36	岡本 洸彰	東京大学 4(221644)
75	13:38	小寺 義伸	東京工業大学 2(501783)
76	13:40	★柴沼 健	早稲田大学 4(222758)
77	13:42	宮嶋 哲矢	千葉大学 2(240249)
78	13:44	谷口 文弥	東京大学 4(221760)
79	13:46	河野 貴大	東京工業大学 2(220377)
80	13:48	椎名 晃丈	東京大学 2(236023)
81	13:50	★北見 匠	東北大学 3(228245)

WE [1/2]		参加人数 40	
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
111	11:31	山根 萌加	京都大学 1
112	11:33	伊佐野 はる香	東北大学 4
113	11:35	香取 菜穂	千葉大学 4(210635)
114	11:37	臼井 沙耶香	東北大学 4
115	11:39	山岸 夏希	筑波大学 4
116	11:41	高橋 友理奈	東北大学 4
117	11:43	伊藤 奈緒	静岡大学 4(220394)
118	11:45	木村 るび子	立教大学 4(221923)
119	11:47	伊東 加織	東北大学 3(228278)
120	11:49	井村 唯	新潟大学 2(502607)
121	11:51	小林 祐子	東北大学 2(236032)
122	11:53	山内 美輝	新潟大学 3(502606)
123	11:55	小竹 佳穂	筑波大学 3
124	11:57	香取 瑞穂	立教大学 2(236152)
125	11:59	河村 優花	名古屋大学 3(231387)
126	12:01	稲垣 秀奈美	千葉大学 4(204946)
127	12:03	荒木 さくら	岡山大学 2
128	12:05	塚越真悠子	大阪大学 3(502181)
129	12:07	諏訪 夏海	東北大学 3(228291)
130	12:09	出田 涼子	大阪大学 3(502186)
131	12:11	立花 和祈	実践女子大学 4(221919)
132	12:13	村田 菜奈美	フェリス学院大学 4
133	12:15	高橋 ひなの	東北大学 4
134	12:17	土江 千穂	京都女子大学 4(504998)
135	12:19	森谷 風香	千葉大学 4(240111)
136	12:21	岡本 ひなの	奈良女子大学 4(228223)
137	12:23	八木橋 まい	東北大学 2(236132)
138	12:25	河野 珠里亜	新潟大学 2(502608)
139	12:27	佐野 萌子	京都女子大学 4(504999)
140	12:29	★増澤 すず	筑波大学 3(507374)
141	12:31	一宮 菜津美	宮城学院女子大学 4(210648)
142	12:33	鈴木 伽南	京都女子大学 3(505104)
143	12:35	佐久間 若菜	筑波大学 2(507375)
144	12:37	羽鳥 咲和	京都女子大学 3(226301)
145	12:39	★伊部 琴美	名古屋大学 2(502491)
146	12:41	澤口 未来	岩手県立大学 4(231673)
147	12:43	宮本 和奏	筑波大学 2
148	12:45	山森 汐莉	金沢大学 4(231806)
149	12:47	青代 香菜子	東北大学 3(228280)
100	12:49	★勝山 佳恵	茨城大学 4(221578)

8

大会役員一覧

人事責任者 大村 幸一郎

8.1 各責任者・役員

<スプリント競技部門 各責任者>

実行委員長	細川 知希
競技責任者	嶋岡 雅浩
運営責任者	菅谷 裕志
コース設定者	谷川 友太
イベント・アドバイザー	木村 佳司

<ロング・ディスタンス競技部門 各責任者>

実行委員長	細川 知希
競技責任者	嶋岡 雅浩
運営責任者	菅谷 裕志
コース設定者	松井 健哉
イベントアドバイザー	木村 佳司

<共通部門 各責任者>

運営責任者補佐	前田 悠作
Web 責任者	林 千尋
会計責任者	谷川 理恵
人事責任者	大村 幸一郎
広報・資材・エントリー責任者	宮西 優太郎
モデルイベント責任者	杉浦 弘太郎

<各チーフ>

フィニッシュパートチーフ	坂野 翔哉
スタートパートチーフ	大村 拓磨
会場パートチーフ	高水 陽介
演出パートチーフ	山内 崇弘
演出パートサブチーフ	稲吉 勇人
給水救護パートチーフ	谷 祐樹

<地図調査・渉外>

山川 克則

<地図調査>

宮西 優太郎、吉田 勉

以下、順不同

<その他の役員>

近藤 康満、大場 隆夫、鳥羽 都子、小澤 宏紀、金 和也、出口 真行、山口 雅弘、佐藤 充晃、星 美沙、
牧 宏優、今井 健人、中田 茂夫、横山 莉沙、鶴飼 須彦、伊東 佑子、南河 駿、野田 昌太郎、今泉将、
落合 公也、中村 友香、川岸 敬生、稲葉 翔也、岡本 晟太郎、落合英那、中田 啓子